

令和5年度

研 究 紀 要



秋 田 県 立 増 田 高 等 学 校

巻 頭 言

校長 渡部 剛

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」

これは初代ドイツ帝国宰相ビスマルクの格言です。「歴史に学ぶこと」の中には、書物や口伝、格言やことわざなどはもちろんですが、新しいことを学ぶ「研修」も広義ではその中に入るのではないでしょうか。

近年は、これまで経験したことのないような劇的な変化が急速に起き、不確実で複雑、不透明で曖昧な社会情勢は「VUCAの時代」と言われています。また、多様性の時代にあって、「いつでも、どこでも、だれにでも」起こりうる学校内外での様々な事案への対応は、今後ますます困難を極めると想像されます。「以前はこう対応した」「こう教えた」「こうしてきた」という経験は、とても貴重で自分の教育観の血肉になっているものですし、言わば自分の財産と言えます。今の自分を形成しているのは、これまで経験してきたことが大きな柱になっていることは事実ですが、ただ、このVUCAの時代にあってこれまでになかったような新たな課題対応の必要性が出てきた際には、自分の財産としてきた経験や勘だけでは対応できないようになってきていると実感しています。教員としての資質能力の向上の途は果てしないことだ、と改めて思うところです。

そうした中、今年は、教員の資質向上を目指す上で転換年となりました。今年4月1日より施行され改正教育公務員特例法の中で、「『令和の日本型教育』を担う新たな教職員の学びの姿の実現」として、「研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励」が求められるようになりました。

「令和の日本型教育」において「教師に共通的に求められる資質の具体的内容」として、①教職に必要な素養②学習指導③生徒指導④特別な配慮や支援を必要とする子供への対応⑤ICTや情報・教育データの利活用、の5項目が挙げられています。受講する上では、これら5項目を見据えながら、教員自身が自分の教員としての資質・能力を客観視しながら、また、同僚や管理職等との対話を通して、自分の伸ばしたい分野、克服したい分野について主体的に研修し、学んだことを生徒や学校組織に還元することが大切になります。自分に当てはめてみると、ICTを活用した授業実践においては、古くはOHPを活用したり、パワーポイントで作成したプレゼンをプロジェクターで投影したりしたことで止まっており、電子黒板を使用したり、インターネットを接続したりする授業展開には及んでいません。また、今後は、是非はあるものの生成AIや採点ソフトの活用など未知なる技術がますます教育現場に導入されることが予想されています。教科指導一つをとっても、日々学ぶことの必要性を実感しているところであり、あらゆる学校業務において、一人一人の教員の学びを重ね続け、そしてそれを他者と共有していくことがやがて多くの「賢者」を輩出し、個人としての教員の資質能力の向上のみならず、学校全体、ひいては県全体の生徒や学校組織の成長につながるものと思っています。

結びになりますが、この研究紀要の原稿執筆や編集に携わっていただいた先生方に感謝いたします。また、私たちの研究についてお読みになっていただいた方におかれましては、色々と御教示いただければ幸いです。

目 次

《巻頭言》	校 長	渡部 剛	
目 次			
《学 科》			
令和5年度総合学科アンケートの結果について			
総合学科東北大会について	総合学科主任	高橋 由美子	1
農業科学科の取り組みと今後の課題について	農業科学科主任	藤井 亨	5
《職員研修・教科研修》			
令和5年度 研修計画		研修部	8
校外研修計画（総合教育センター）		研修部	13
校内研修計画		研修部	13
令和5年度第1回職員研修		保健環境部・研修部	15
令和5年度第2回職員研修		研修部	16
令和5年度第3回職員研修		生徒指導部・研修部	24
令和5年度第2回指導主事訪問			26
	授業研修会		
	数学科	奥 建悦	34
	体育科	永須 裕貴	36
	商業科	藤原 一誠	39
《研修報告》			
初任者研修を受講して	理科（化学）	伊藤 智樹	42
初任者研修を受講して	商業科	藤原 一誠	46
実践的指導力習得研修講座（3年目）を受講して	家庭科	福田 菜摘	50
中堅教諭等資質向上研修・選択研修報告	農業科	齊藤 晃仁	51
中堅教諭等資質向上研修・特定課題研究	農業科	齊藤 晃仁	53
編集後記			

学 科

令和5年度総合学科アンケートの結果について

総合学科部

令和5年度総合学科3年生を対象に1月にアンケートを実施した(GoogleフォームによるWebおよび紙媒体による)。集計した結果を過去2年間と比較して報告する。

総合学科に対する入学前後の意識として期待通りだったとする回答が増加しており(質問3)、ほとんどの生徒が総合学科で学んで満足だった(質問22)との回答が得られた。また、系列選択の時期は「適切」と回答した生徒の増加(質問9)や系列の変更希望は「ない」と回答した生徒の増加がみられ(質問11)、系列選択時の十分な説明や面接等により希望する系列についてよく理解したうえで選択につながっていると考えられる。しかし、進路を決定した時期が「2年次」という回答が多く(質問15)、進路変更により系列変更を希望したいと考えた生徒もみられた(質問11)。今後も系列選択時の各系列の理解を深められるような説明、体験授業、面接等の実施と、柔軟な対応について考えていきたい。

総合学科の学びについての質問では、自分自身を見つめ将来について深く考えたり(質問18)、学ぶことの楽しさを感じたりしたかについて(質問22)、「そう思わない」と回答した生徒が例年よりも多かったことから、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」や各系列の授業において、目標と課題を明確にして指導の工夫を加えていく必要があると感じた。「探究」については学習の成果を感じている生徒が多くみられた(質問25)。

	R3	R4	R5
回答人数	51人	61人	73人
在籍人数	68人	74人	74人

【入学前・後の意識について】

1 入学の際、「総合学科の高校」ということが学校選択の決め手になりましたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	総合学科だから入学した	28	54.9%	22	36.1%	23	31.5%
2	どちらかといえば総合学科だから入学した	9	17.6%	9	14.8%	16	21.9%
3	特に総合学科だからという理由ではない	11	21.6%	20	32.8%	28	38.4%
4	総合学科だからという理由では全くない	3	5.9%	10	16.4%	6	8.2%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

2 入学の際、「総合学科の高校」の特徴についてあなたはどのようなイメージを持っていましたか。

(R3・R4は複数回答有り)

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	一人一人に応じた指導をしてくれる	7	8.0%	2	2.1%	6	8.2%
2	自分の生き方を考える学習ができる	4	4.6%	6	6.2%	1	1.4%
3	多くの選択科目が開設されている	31	35.6%	32	33.0%	30	41.1%
4	自分の興味関心にあった学習ができる	35	40.2%	40	41.2%	28	38.4%
5	普通科目と専門科目をバランスよく学べる	10	11.5%	15	15.5%	8	11.0%
6	その他	0	0.0%	2	2.1%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

3 入学前と比べ、入学後に総合学科をどのように感じましたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	期待通りだった	17	33.3%	19	31.1%	30	41.1%
2	やや期待通りだった	29	56.9%	33	54.1%	38	52.1%
3	やや期待はずれだった	3	5.9%	6	9.8%	5	6.8%
4	期待はずれだった	2	3.9%	3	4.9%	0	0.0%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【「産業社会と人間」・「総合的な探究における」学びについて】

4 産社・探究の時間を通して、入学時よりも自分自身について見つめ直すことができた。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	22	43.1%	20	32.8%	28	38.4%
2	ややそう思う	26	51.0%	32	52.5%	38	52.1%
3	あまりそう思わない	3	5.9%	8	13.1%	6	8.2%
4	全くそう思わない	0	0.0%	1	1.6%	1	1.4%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

5 産社・探究の時間を通して、入学時よりもこれからの生き方を考えることができた。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	23	45.1%	30	49.2%	34	46.6%
2	ややそう思う	25	49.0%	22	36.1%	33	45.2%
3	あまりそう思わない	3	5.9%	8	13.1%	5	6.8%
4	全くそう思わない	0	0.0%	1	1.6%	1	1.4%
無回答		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

6 産社・探究の時間を通して、入学時よりも働くことに対して意欲がわいた。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	25	49.0%	25	41.0%	35	47.9%
2	ややそう思う	19	37.3%	29	47.5%	32	43.8%
3	あまりそう思わない	7	13.7%	7	11.5%	6	8.2%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

7 産社・探究の時間を通して、入学時より社会の出来事に問題意識を持つようになった。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	17	33.3%	27	44.3%	33	45.2%
2	ややそう思う	33	64.7%	28	45.9%	32	43.8%
3	あまりそう思わない	1	2.0%	5	8.2%	7	9.6%
4	全くそう思わない	0	0.0%	1	1.6%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【系列・科目選択について】

8 系列や科目選択にあたって、学校側によるガイダンス(指導や説明)は十分でしたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	25	49.0%	25	41.0%	35	47.9%
2	ややそう思う	23	45.1%	30	49.2%	33	45.2%
3	あまりそう思わない	3	5.9%	5	8.2%	4	5.5%
4	全くそう思わない	0	0.0%	1	1.6%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

9 系列選択の時期は適切でしたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	早すぎる	25	49.0%	21	34.4%	13	17.8%
2	適切である	26	51.0%	39	63.9%	56	76.7%
3	遅すぎる	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
4	その他	0	0.0%	1	1.6%	2	2.7%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%

10 系列選択は何を基準にしましたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	卒業後の進路	35	68.6%	25	41.0%	34	46.6%
2	興味・関心	11	21.6%	24	39.3%	29	39.7%
3	資格取得	4	7.8%	11	18.0%	9	12.3%
4	その他	1	2.0%	1	1.6%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

11 学年が上がる時に系列の変更を希望したいと思ったことはありますか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	ある	11	21.6%	15	24.6%	14	19.2%
2	ない	33	64.7%	41	67.2%	57	78.1%
3	どちらともいえない	7	13.7%	5	8.2%	2	2.7%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

12 選択科目の学習内容ははじめの期待通りでしたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	完全に期待どおり	15	29.4%	14	23.0%	24	32.9%
2	やや期待通り	33	64.7%	36	59.0%	39	53.4%
3	あまり期待通りではなかった	3	5.9%	9	14.8%	9	12.3%
4	全く期待通りではなかった	0	0.0%	2	3.3%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

13 12の回答の理由(主なもの)

- 1:完全に期待通り
 ・試験に必要な科目を学ぶことができたから
 ・習いたい分野を教えて貰えたから
- 2:やや期待通り
 ・自分が学びたい系列を選び、進路にあった学習をすることができた
 ・自分の将来に関係する職種についての資格を取れたから
- 3:あまり期待通りではなかった
 ・考えていたよりも難しく自分に不向きだったから
- 4:全く期待通りではなかった
 ・将来につながらない

14 開設されている科目のほかにどのような科目があればよいと思いましたか。

音楽、スポーツ、IT、プログラミング、電子商取引、電話対応やビジネスマナーの授業、福祉、看護、美容、生徒全体で学校の自治制度について考えてみる科目

【進路決定について】

15 高校卒業後の進路はいつ決めましたか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	入学前	7	13.7%	12	19.7%	13	17.8%
2	1年次	9	17.6%	7	11.5%	6	8.2%
3	2年次	19	37.3%	19	31.1%	29	39.7%
4	3年次になってから	16	31.4%	23	37.7%	25	34.2%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

16 進路は自分で学んだ科目を活かしたものになっていますか。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	完全に活かされている	13	25.5%	22	36.1%	23	31.5%
2	ある程度活かされている	25	49.0%	27	44.3%	30	41.1%
3	あまり関係がない	10	19.6%	8	13.1%	14	19.2%
4	全く関係がない	3	5.9%	4	6.6%	6	8.2%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

17 現在の進路についてどう思っていますか。(R3・R4は複数回答有り)

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	希望通りで満足	40	75.5%	53	82.8%	59	80.8%
2	希望通りではないが満足	10	18.9%	11	17.2%	12	16.4%
3	希望したものがなく、不満	1	1.9%	0	0.0%	1	1.4%
4	希望している進路はあるが、未定	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
5	進路は未定	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%
6	その他	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【総合学科での学びを通して】

18 総合学科で学んで、自分自身を見つめ、将来について深く考えることができた。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	25	49.0%	33	54.1%	39	53.4%
2	ややそう思う	25	49.0%	26	42.6%	25	34.2%
3	あまりそう思わない	1	2.0%	2	3.3%	8	11.0%
4	全くそう思わない	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

19 自分の興味・関心に応じた時間割を作ることができた。

番号		R3		R4		R5	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	とてもそう思う	19	37.3%	23	37.7%	25	34.2%
2	ややそう思う	27	52.9%	29	47.5%	38	52.1%
3	あまりそう思わない	4	7.8%	5	8.2%	6	8.2%
4	全くそう思わない	1	2.0%	4	6.6%	4	5.5%
	無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

20 さまざまな体験活動を通じて、幅広い視野を養うことができた。

番号	R3		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	28	54.9%	28	45.9%	38	52.1%
2	23	45.1%	31	50.8%	31	42.5%
3	0	0.0%	2	3.3%	4	5.5%
4	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

21 自分の好きなことをみつけることができた。

番号	R3		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	22	43.1%	23	37.7%	31	42.5%
2	22	43.1%	31	50.8%	35	47.9%
3	7	13.7%	7	11.5%	4	5.5%
4	0	0.0%	0	0.0%	3	4.1%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

22 学ぶことの楽しさを感じる事ができた。

番号	R3		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	17	33.3%	25	41.0%	26	35.6%
2	27	52.9%	30	49.2%	31	42.5%
3	7	13.7%	4	6.6%	11	15.1%
4	0	0.0%	2	3.3%	5	6.8%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

23 総合学科で学んで満足しましたか。

番号	R3		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
1	25	49.0%	27	44.3%	31	42.5%
2	21	41.2%	31	50.8%	41	56.2%
3	2	3.9%	1	1.6%	0	0.0%
4	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%
5	3	5.9%	2	3.3%	0	0.0%
無回答	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%

【総合学科高校の特徴的な学習(「産業社会と人間」「探究」の授業や、科目選択、系列など)について】

25 良かった点や今後も継続した方がよいと思うこと

- ・ 進路にあった学びができる場所がいい
- ・ 科目選択の際に教科書を見せてくれたので、学ぶ内容を確認できた点
- ・ 系列の数がちょうどいい、たくさんあること
- ・ 一年次から系列の授業を学べる点
- ・ タブレットを使った学習ができてよいと思った
- ・ 探究活動のグループ分けが良いなと思いました
- ・ 進路に関することで探究活動をしたこと。このおかげで進路選択時に大いに役に立った。
- ・ 探究活動をして発表することは継続した方がよいと思う
- ・ 今となっては、スタディーサプリの学校調べがすごくいい時間になったと感じている
- ・ 就職に関する講演会
- ・ 学校行事全般

26 改善した方がよいと思うこと

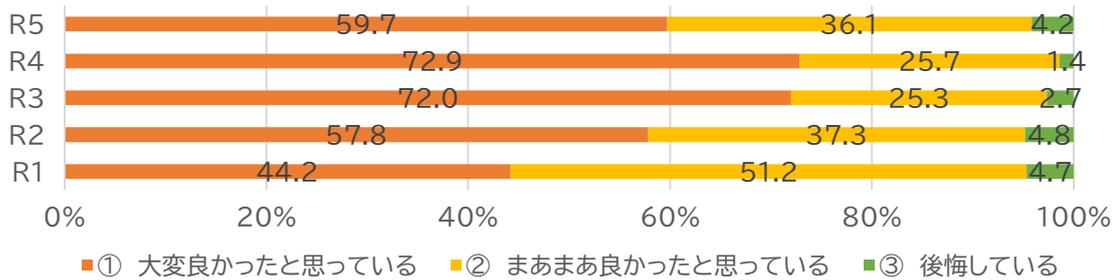
- ・ もう少し系列変更できる期間を伸ばして欲しい。系列を変えられるようにする。
- ・ 総合的な探究の時間を増やしてほしい。進路に関係なくてもやりたいことをやりたい。
- ・ 探究の時間にもっと力を入れるべきだと思います。例えば、地域に根ざしたキャリア教育の展開など。
- ・ 自分の進路について調べる時間が欲しい
- ・ 本当に実施する必要があるのかというような講演会が多すぎる。もう少し役に立つような講演会(地元企業の経営者の講演、社会に出てから大切なこと等)を実施するべきだと思う。
- ・ 校則の内容

令和5年度農業科学科生徒アンケートの結果について

農業科学科

本アンケートは、農業科学科所属生徒の実態を把握し、教育課程の改善を推進するための基礎資料とするため、18年間継続実施している。対象は農業科学科1～3学年全員とし、1～2月の期間で実施した。本稿では全11問中6問の結果を抜粋し報告する。

1 あなたは農業科学科に入学してどう思っていますか。(%)



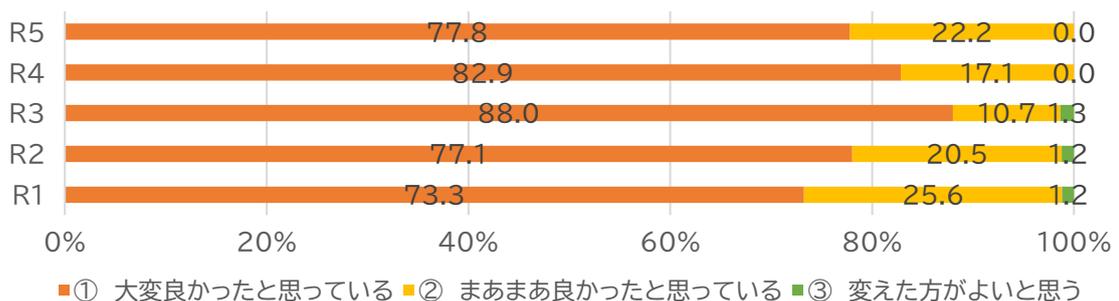
農業科学科に入学の満足度は3年前の水準に戻った。実験・実習時数の少ない1年生の満足度が低いことから、1年次の専門科目について内容を充実させたい。

2 あなたが農業科学科に入学した動機は次のどれですか(複数回答可)。(%)



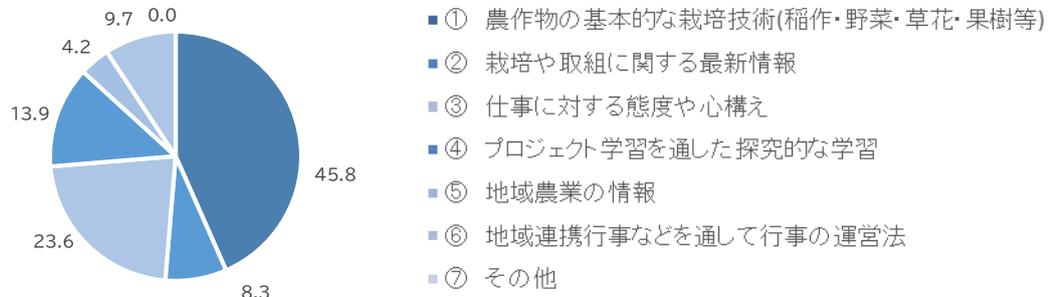
「農業に興味を持ったから」の比率が年々高まっている。今年度も中学生体験入学の体験学習を重視し、中学生目線で農業に対する魅力を感じる内容となるよう、2コースとも高校生のアシスタントのもとで進行した。次年度以降も、参加した中学生にとって満足度の高まる内容となるよう改善していきたい。

3 農業科学科の農業学習は実験や実習が中心になっていますが、このことについてあなたはどのように思いますか。(%)



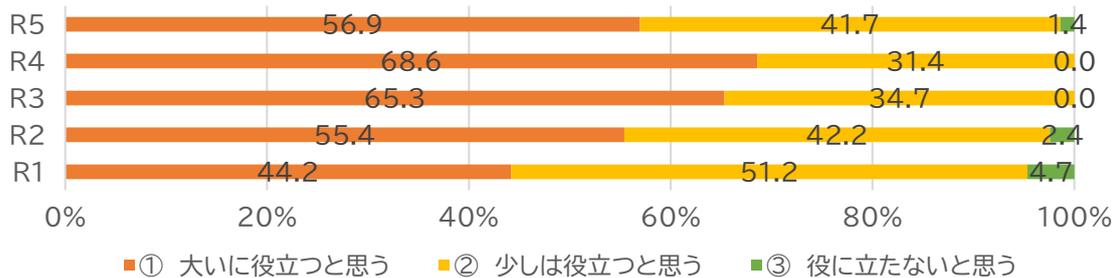
実験実習が中心で「良かったと思っている」生徒の割合が2年連続100%となった。今後も実験実習を通して座学の学習内容を深化させるとともに、地域連携活動を通してコミュニケーション能力や企画力を高めるよう努めたい。

4 あなたは農業科学科でどんなことを学びたいですか。(%)



「農作物の基本的な栽培技術」のニーズが最も高くなった。また、昨年度との比較では、「プロジェクト学習を通じた探究的な学習」が増加し13.9%となった。各部門における地域貢献・地域連携による地域密着型のプロジェクト学習により探究学習を充実させたい。

5 農業科学科で学んだことは自分の将来に役立つと思いますか。(%)



第1問と同様に、3年前の水準に戻った。社会との接点を多く持たせるような地域密着型の取組を増加し、教育活動の更なる充実を図りたい。

6 あなたは将来、農業をやりたいと思っていますか。(%)



今年度、農家の生徒は35.4% (昨年度比6.8%増) にすぎないが、58.4%の生徒は何らかの形で将来農業に携わりたいと考えている。今後も「農業教育高度化事業」や「横手市農業インターンシップ事業」等を活用し、地域をリードする農業者との連携によるインターンシップや講話、先進的な技術の視察研修等を実施することで就農意欲の喚起に努めたい。

研修計画

令和5年度 研修計画

1 秋田県学校教育の目指すもの = 豊かな人間性をはぐくむ学校教育

- I 思いやりの心を育てる
- II 心と体を鍛える
- III 基礎学力の向上を図る
- IV 教師の力量を高める

2 本校の教育方針と目標

教育基本法の精神に則り、平和的な国家及び社会の形成者としてふさわしい人間を育成する。
この方針に従い、次のような人間を育成することを目標とする。

- ① 心身ともに健康で、思いやりのある心豊かな人間
- ② 自ら学び、自ら考え判断し、主体的に行動できる人間
- ③ 正しい勤労観を持ち、郷土の発展に貢献する人間
- ④ 社会の変化に柔軟に対応し、21世紀をたくましく生き抜く人間

3 各学科の目標

- ① 総合学科
多様な教科・科目を開設し、生徒の興味・関心に基づき選択履修させ、将来の進路への自覚を深める学習や個性を生かした主体的、体験的な学習を通して、社会の変化に柔軟に対応できる能力と態度を育成する。
- ② 農業科学科
地域の農業の基幹である果樹と稲作を基礎として、生物生産と経営に関する知識と技能を習得させるとともに、地域の構成員として必要な資質を培い、地域農業の発展に寄与できる能力と態度を育成する。

4 重点実践目標

(1) 学力向上と進路実現

- ① 生徒の「分かる」を引き出す授業改善
 - ア 探究型授業スタイルの実践
 - イ ICTを活用した分かる授業の展開
- ② 生徒一人一人の多様な進路実現
 - ア 教育課程の見直し（令和7年度からの見直しを目標）
 - イ 進路相談・支援の充実

(2) 全職員による生徒指導の充実

- ① 生徒一人一人の見取りと実態に応じた対応の充実
- ② 思いやりの心を育てる指導の工夫

(3) 地域連携の推進と発信

- ① 地域貢献および地域課題への取組
- ② H P 等での積極的な情報発信

(4) 探究活動を通じた人間形成

- ① 生徒の探究的な学びの充実
- ② 生徒の自己実現に向けた指導の工夫

5 令和5年度の目標 「元氣な増田高校」づくりの推進

- ① 生徒を輝かせる教育活動
- ② 愛校心を育てる教育活動
- ③ 地域連携を充実させる教育活動

6 職員研修の重点目標

課 題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体性を活かした授業展開の工夫。 ・キャリア教育の視点に立った組織的な授業改善の取り組み。 ・教科横断的学力育成のためのカリキュラム・マネジメント。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の資質向上を図る、研修会を実施する。 ・生徒の主体性を引き出し、探究的な活動を導くための授業改善に努める。 ・生徒の実態把握と支援のあり方について、共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の要望を取り入れた実りある研修会を開催するために、関係分掌との連携を密し、校内職員研修会を企画・運営する。 ・互見授業を実施し、授業改善の手立てとする。ICT機器の活用実践例を共有することで、生徒の主体的、探究的な学習活動を促す。 ・生徒の情報を共有し、必要な研修会への参加や各種研修会参加後の情報共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「わかる」を手助けするためのICTの効果的な活用。

7 各教科の重点目標

	課 題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意欲的な学習態度をどのようにして引き出すか。 ・読む力、書く力、話す力の基礎の定着と活用の仕方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に学習活動に取り組む姿勢を育てる。 ・学習習慣の確立による基礎の定着化。 ・国語の力を身に付け、良好な人間関係づくりの土台を築かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のねらいを明示し、それに応じた言語活動を行う。 ・週末課題、家庭学習など学習習慣の確立を通し、国語の基礎力定着を図る。 ・多様な表現活動を通じ、伝え合うことの大切さに触れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の問い」を引き出し、「わかる」を実感できる「主体的、対話的、深い学び」の授業実践。 ・学習習慣の確立から、国語の基礎力定着、学力向上につながる授業のあり方の構築。
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着。 ・社会的事象に関心と課題意識を持ち、自らの考えを積極的に表現する姿勢や能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の養成・定着を図る。 ・課題の発見と探究活動を通して深めた知識や考えを、積極的に表現する姿勢や能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや授業プリント等を効果的に活用する。 ・ICT機器等を活用し、社会的事象について考察させる。 ・発問や学習活動の場面設定を工夫し、生徒が発見発表する機会を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の考えを引き出す効果的な発問や探究活動の場面設定のあり方を考える。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の養成。 ・家庭学習の習慣化の徹底。 ・進学希望者の進路達成のための学力向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の養成と定着を図る。 ・個別指導の充実を図り、応用的な学力の定着を図る。 ・数学の学習を通して、真理を探究する姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の実態に応じた適切な指導。 ・日常的な課題の作成と添削指導。 ・応用的な学習内容につながる授業展開と既習事項の確認及び指導強化（はしわたし授業、ICT機器の活用等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習を通じて「見通す力」の涵養を促す指導法の確立。 ・自発的な学習態度を育成する効果的な指導法の確立。 ・新教育課程に対応した進度の確立（ICT機器の活用等）。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着。 ・中高の学習法の接続。 ・科学的な思考力、自然を探究する能力や態度の育成。 ・進学希望者の進路達成のための学力の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考の基礎となる基本事項を定着させる指導を行う。 ・実験・観察を通して探究活動を行い、課題を主体的に発見、解決する能力・態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の気付きを促す発問を工夫する。 ・身近な事象や日常生活との関わりを教材に取り入れる。 ・探究型の実験・観察を多く行うよう工夫する。 ・ドライラボを含め、情報を整理し考察させる経験をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の定着とその活用能力を高める授業を展開する。 ・探究の過程・結果・考察を自分の言葉で表現する力を養う授業展開。

	課 題	本年度の目標	具体的方策	研究主題
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力を高める指導。 主体的・積極的な運動の実践を通して、楽しみながら知識や技能、体力を高める。 現代社会や自らの健康課題について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストにおける体力ポイントの低い項目の強化を図る。 健康の保持増進のための知識、意志決定にもとづく適切な行動選択ができる能力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種目と系統づけた体力を高めるための運動を継続して実践する。 練習方法や戦術等について、効果的に話し合いの機会や場面を設ける。 生徒の運動能力、興味や関心の現状を把握し、理解を深めるための教材や場づくりを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業を通じた規律の定着と生徒の主体的な活動によって、健康的な将来につながる運動の実践。 ヘルスプロモーションの考えにつながる保健学習の充実。
芸術	<ul style="list-style-type: none"> 芸術への関心、意欲の喚起。 感性を高める指導。 豊かな情操を培う指導。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術文化についての理解を深めさせ、生涯にわたって愛好する心情を育む。 感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術の幅広い活動の中に言語活動を適切に位置づけられるよう工夫する。 ICT機器等を活用し、表現と鑑賞の相互関連を図りながら、能動的に学習を深められるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術を理解する喜びを感じられる指導。 感性と表現力の育成。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に対応した授業をどのようにして作っていくか。 基礎学力をいかにして身につけさせるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な音読指導により基礎基本の反復の習慣を身につけさせる。 小テストなどを効果的にに行い、語彙力と表現力を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に生徒が英語をできるだけ多く話す(読む)ことができるよう工夫する。 小テストで、小さな目標をクリアさせることにより、達成感や自信を持たせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読の指導方法の工夫。 苦手意識を持つ生徒に自信をつけさせる指導方法の工夫。 自ら英語を学ぼうとする姿勢の育成。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 自己の生活から課題を見出し、いかにして解決策を考える能力を身につけさせるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 資格取得の奨励ときめ細かい指導。 発問を通して、生徒の考えを引き出す。 問題解決するための基礎力として、知識と技術の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に密着した実技や実習を取り入れる。 実生活に即した例題の提示や発問をする。 ICT活用に合わせて教材を開発する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだ知識や技術が、実際の生活に生かされるような指導の工夫。 ICT活用と教材の工夫。
福祉	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学ぶ態度の育成。 基礎的・基本的な知識と技術の習得。 	<ul style="list-style-type: none"> 福祉に関する基礎的な知識と技術を習得し、福祉の心を育成する。 社会福祉への関心を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の工夫と精選。 体験的な学習を効果的に取り入れた授業の展開。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の成長段階や興味関心に合わせた事例の選定と展開。
情報	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会に主体的に参画するための資質・能力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報社会の問題解決。 コミュニケーションと情報デザイン。 コンピュータとプログラミング。 	<ul style="list-style-type: none"> 法規や制度及びマナーの意義、モラルなど科学的に捉える。 情報通信ネットワークのしくみ、データの活用について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報技術を活用して問題の発見・解決する方法を身につける。
商業	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的な知識と技術の習得。 経済活動や社会に対する興味・関心の喚起。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら学ぶ意欲を向上させる。 資格を取得するために主体的に取り組む態度を身につけさせる。 地域産業への関心を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の工夫・精選。 授業を通じた規律指導。 資格取得に向けた対策強化。 外部機関との連絡強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ビジネス場面を想定し、即座に対応する実践的な能力を育成させる。 経済社会の発展に主体的に貢献する意欲を向上させる。
農業	<ul style="list-style-type: none"> 実験実習に対して主体的に取り組む態度の育成。 現場の課題を発見し、科学的に解決する力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識と技術を活用し、農業の振興や地域貢献に主体的に取り組む態度を身に付けさせる。 実験実習を通して課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習やインターンシップ、各種地域貢献活動等の効果的な実施と工夫改善。 農業ITセンサー、ドローンを含めた各種ICT機器等の活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 実習や地域交流を通じた生徒の主体的態度、実践力の涵養を促す指導法の工夫。 現場の課題を科学的に解決する手段として、ICTを効果的に活用した探究活動の実践。

8 学年部指導

	学年目標	重点目標	具体的方策
1 学 年	<p>高校生としての基本的な生活習慣・学習習慣を身につけ、将来の進路を主体的に模索しながら適切な進路目標を設定する。また、社会において求められるコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>1 生活三信条を徹底し、基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、高校生として必要な学習習慣を身につけさせる。</p> <p>2 適切な進路目標を設定させ、その目標達成に向けて主体的に情報収集し、学力向上に取り組ませる。</p> <p>3 学校生活や学外での活動に積極的に取り組みさせ、望ましいコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間厳守、特に提出物の期限に努め、生活三信条を意識して生活を送らせる。 ・中学校の復習と遅刻防止を目的に、計画的に教材を選択して朝学習を実施する。 ・適切な課題を与え、予習を前提とした授業を展開することで、家庭学習の習慣を定着させる(授業の初回にガイダンスを行い、学習方法、予習・復習の仕方について説明する)。 <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路希望を明確にさせ、その上で系列選択ができるよう、適切な情報収集の支援を行っていく。 ・「産業社会と人間」、「アグリ・ナビ」を活用して、キャリア教育を推進する。 <p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事、学校行事に取り組みを通して、協力することの大切さを教える。 ・学校生活において、自分の意見を発表する場面や、他者と意見を交換する場面を通して、コミュニケーション能力を育成する。 ・地域でのボランティア活動に積極的に参加させ、地域理解とコミュニケーション能力の向上に役立たせる。
2 学 年	<p>中堅学年にふさわしい基本的な生活習慣・学習習慣を確立し、将来の進路目標を明確に設定する。また、社会人・職業人として必要なコミュニケーション能力を養う。</p>	<p>1 日々の授業と家庭での予習・復習を大切にさせ、更なる学力の向上を図る。</p> <p>2 進路目標を明確に設定させ、その実現に向けて実力の養成に取り組む。</p> <p>3 インターンシップや修学旅行等の様々な体験活動を通して、望ましい職業観やコミュニケーション能力を育成する。</p>	<p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的に教材を選択して、朝学習を有効に活用する。 ・長期休業、週末等の課題の充実・適量化を心掛け、学習支援サービスを活用しながら家庭学習の充実を図る。 ・模擬試験の事前・事後指導を徹底する。 ・課題研究を通して、課題解決能力を身につけさせる。 <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人面談により生徒の進路希望を把握し、適切な支援をする。 ・三者面談、保護者面談を実施し、保護者の意向を確認する。 ・進路指導部の「面接カード」を活用して、教職員間の連携を図る。 ・進路ガイダンス等を実施し、進路意識の高揚を図る。 ・進学希望者に対して、長期休業中のオープンキャンパスへの参加を促す。 <p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの事前・事後指導を徹底する。 ・修学旅行に向けた事前学習を充実させる。 ・普段の学校生活や進路・特別活動、学校行事等を通して、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を育成する。

	学年目標	重点目標	具体的方策
3 学 年	個々の生徒が最上級学年としての責務を果たしつつ、自己の進路目標の達成に向けて最後まで全力で取り組み、進路実現できるようにサポートする。	<p>1 日々の授業と家庭での予習・復習により基本を定着させ、補習等を通じて実戦的能力を充実させて、進路達成に必要な学力の定着を図る。</p> <p>2 保護者との連携を密にして、生徒の学習へのモチベーションを保ち、進路達成につなげる。</p> <p>3 社会人として必要なコミュニケーション能力と自己管理能力を身につける。</p>	<p>1 について</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝学習・朝補習の内容を精選し、基礎事項の定着を図る。 放課後補習、添削により、実戦的な学力の養成を図る。 「キャリア・パスポート」等を活用して、進路意識を高める。 <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人面談により生徒の進路希望を把握し、適切な支援をする。 進路指導部の「面接カード」を活用して、教職員間の連携を図る。 進路ガイダンスや面接指導を行い、進路実現へ向けて意識の切り替えを図る。 <p>3 について</p> <ul style="list-style-type: none"> 面接指導、志願理由書の指導を通して、適切な表現力やコミュニケーション能力を育成する。 課題研究の立案、実施、まとめ、発表のプロセスを通じて、コミュニケーション能力と表現力の育成を図る。

9 校外研修計画(総合教育センター)

講座番号	講座名	職名	氏名	教科
A03	初任者研修講座(高等学校)	教諭	伊藤智樹	化学
A03	初任者研修講座(高等学校)	教諭	藤原一誠	商業
A07	実践的指導力習得講座(高等学校)	教諭	福田菜摘	家庭
A22	中堅教諭等資質向上研修講座(高等学校)	教諭	齊藤晃仁	農業
A29	県立学校新任教頭研修講座	教頭	淡路亜津子	数学
A34	高等学校新任学年主任研修講座	教諭	山本博史	国語
C06	生徒が主体的・対話的に学ぶ高等学校地理・公民科の授業作り	教諭	佐貫修	地歴公民
C18	育成する資質・能力から考える美術科の授業	教諭	奥山美穂	美術
C18	育成する資質・能力から考える美術科の授業	教諭	糯田亜希子	美術
C24	「家庭や地域の生活を創造する資質・能力」の育成に向けた授業づくりー高等学校家庭科ー	教諭	高橋由美子	家庭
C30	発達の段階に応じた情報モラル教育の理解と実践	養護教諭	島田牧子	
C30	発達の段階に応じた情報モラル教育の理解と実践	教諭	藤原一誠	商業
C31	プレゼンテーションソフトによるデジタル教材の作成	実習助手	今藤司	農業
C33	高等学校におけるプログラミング演習	教諭	菅原晴彦	数学
C33	高等学校におけるプログラミング演習	教諭	藤原一誠	商業
C34A	学校におけるICT活用の基礎	教諭	大沼明子	英語
C35	高等学校情報Iにおける指導の充実	教諭	藤原一誠	商業
C47	高等学校講師研修講座C	臨時講師	高橋哲平	農業
C47	高等学校講師研修講座C	実習助手	藤田涼平	農業

10 校内研修計画

- ・校内職員研修 年3回実施予定
 - 第1回 5月23日【職員救急救命講習会】
 - 第2回 10月25日【ICTの活用(Jamboardについて)】
 - 第3回 12月11日【職員のメンタルヘルスケア】

職員研修
教科研修

令和5年度 第1回職員研修実施要項

研修部・環境保健部

- 1 内 容 救急救命講習（90分講習）
 - ・AEDの使用方法
 - ・心肺蘇生法
- 2 目 的 日常生活における救命措置に対する意識を高め、いざというときにAEDを利用して救命措置を行うことが出来るように、AED（自動体外式除細動器）を用いた救急法を学び、実際的な技術を身につける。
- 3 対 象 増田高校職員全員
AED講習を含めた普通救命講習会は、AED設置施設の職員に義務づけられており、本校では、2年に1度、必ず受講していただくことになっている。
- 4 期 日 5月23日（火） 13:30～15:00
*1学期中間考査期間中の午後
- 5 会 場 第1体育館
- 6 講 師 横手消防本部救急課より 署員4名来校
- 7 次 第 **★進行：保健主事**
 - 1) 開会
 - 2) 講師紹介
 - 3) 講話と演習
 - 4) 謝辞（管理職）
- 8 役割分担 渉外・名簿作成：養護教諭 司会：保健主事 会場準備：環境保健部
- 9 その他
 - *グループごとに分かれて座っててください。
 - *マスクの着用については、消防本部からの指示は特にありませんが、念のため準備をお願いします。
 - *服装は動きやすい服装でお願いします。（ジャージが望ましい。スカートとネクタイは×）。

令和5年度第2回職員研修：ICTの活用について

令和5年度 第2回 校内研修会 要項

研 修 部

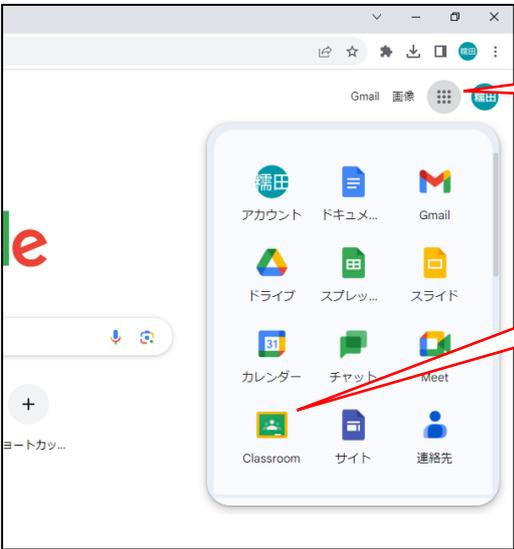
- 1 目的 Google Jamboard を活用し、授業や協議等の話し合いで円滑な活用をはかる。
また、説明で Meet を活用し、クラスルームを利用したオンラインでの協議方法も習得する。
- 2 期 日 令和5年10月25日（水）
- 3 時 間 16：00 ～ 16：30
- 4 場 所 職員室
- 5 講 師 研修部 糯田亜希子
- 6 演 題 「ICTの活用（Jamboard について）」
- 7 対象者 増田高等学校教職員
- 8 その他 別紙資料を参照

「ICT の活用（Jamboard について）」

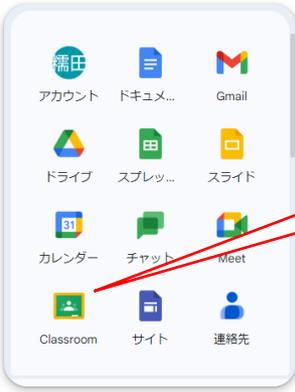
10月30日(水)「令和5年度教育委員会指導主事等の学校訪問 校内授業研修会」で活用する Jamboard の活用について、以下のことについて確認と操作をお願いいたします。

1. 増田高校全職員のクラスルームへの参加方法(10月25日までに参加してください)
2. Meet への参加方法(10月25日(水)校内職員研修で meet をつかって説明します)
3. Jamboard の活用方法(10月25日(水)に一齐に動作確認の研修をいたします)

1 増田高校全職員のクラスルームへの参加方法



① Google のアプリランチャー (9つのドット) をクリック

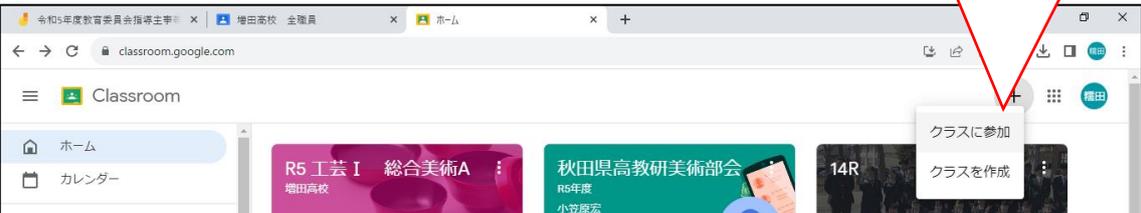


② Google クラスルームをクリック

③ クラスを作成またはクラスに参加の「+」をクリック



④ クラスに参加を選択

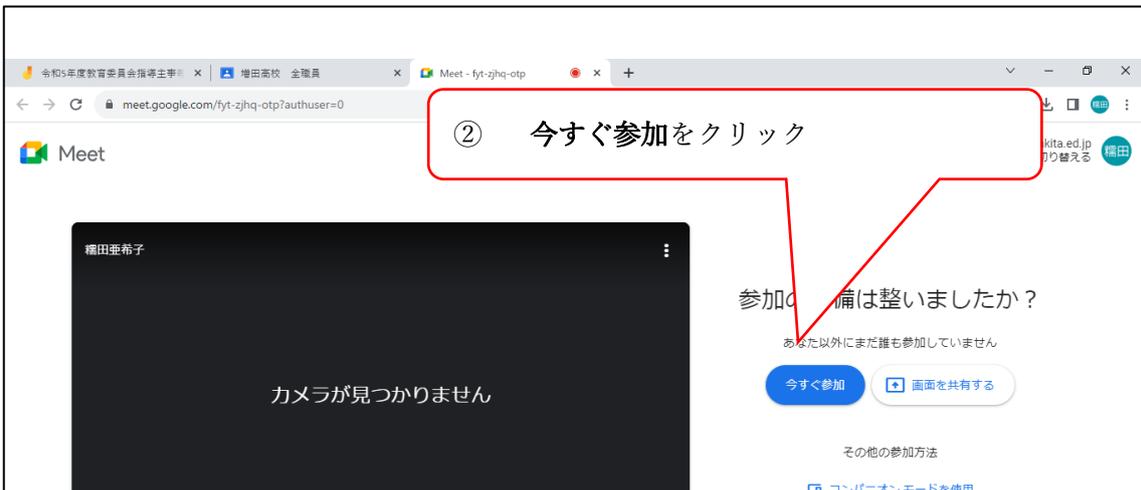
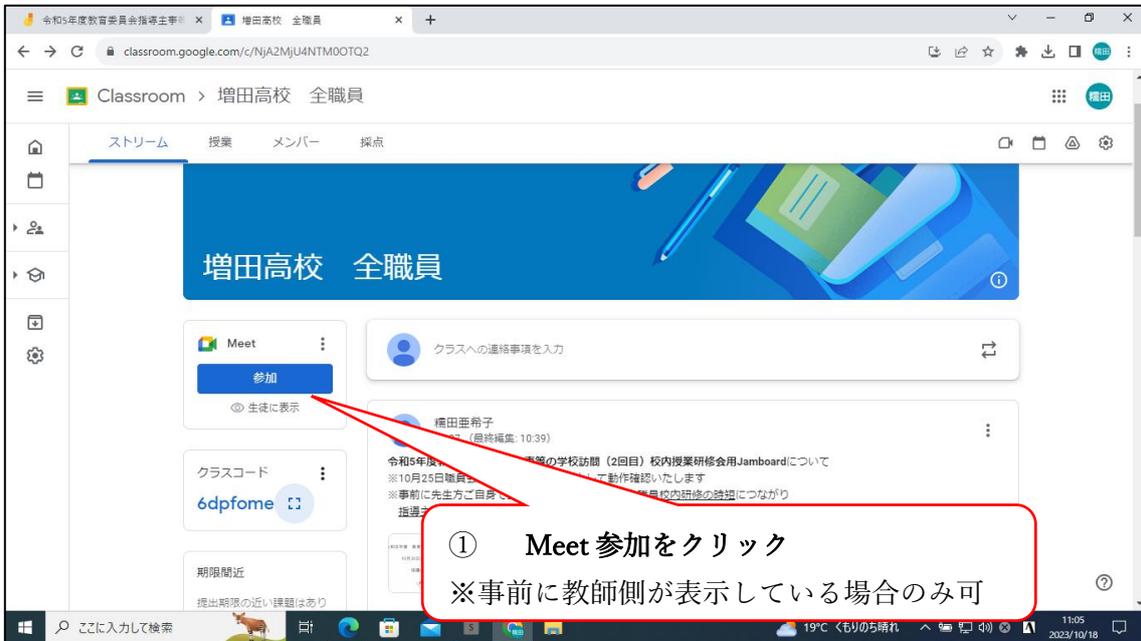


The image shows a sequence of four screenshots illustrating the steps to join a Google Classroom. Step 1 shows the Google App Launcher (9-dot icon) being clicked. Step 2 shows the Google Classroom app icon being selected. Step 3 shows the '+' icon in the top right corner of the Classroom interface being clicked. Step 4 shows the dropdown menu that appears, with the 'Join Class' option being selected.



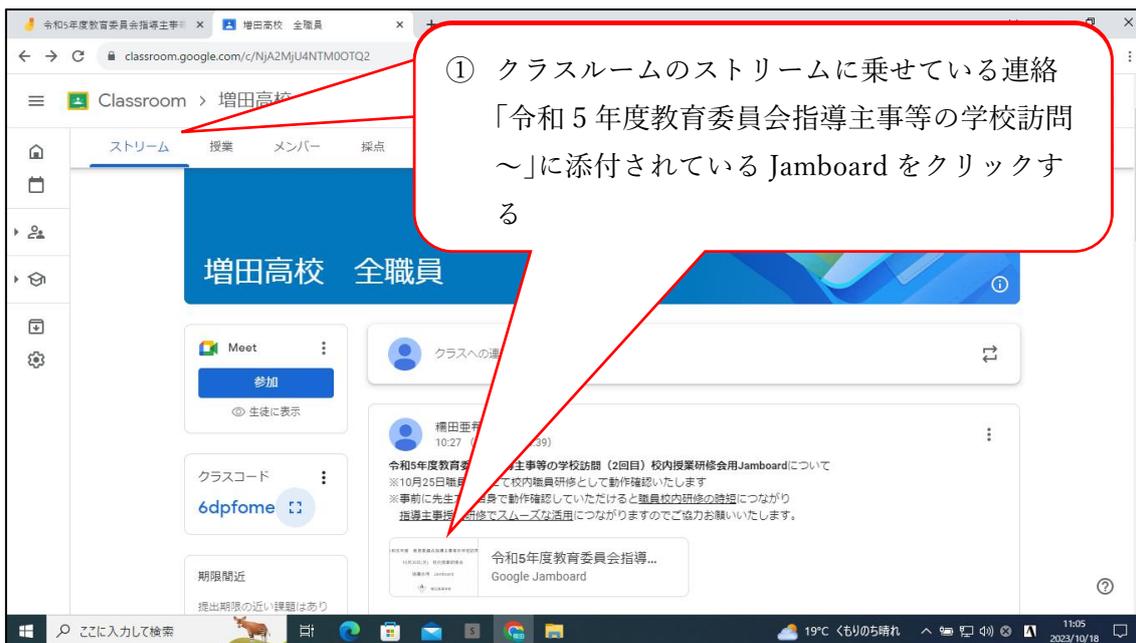
2 Meet への参加方法(クラスルームからの参加)

※Meet は校内職員研修で Jamboard 説明の為に使用 指導主事訪問時の協議会では使用しませんのでご注意ください!!





3 Jamboard の活用方法 (10月30日指導主事等の学校訪問校内授業研修会での活用)



令和五年度 教育委員会指導主事等
10月30日(月) 校内授業研
協議会用 Jamboard
増田高等学校

② Jamboard の表紙
上の>の矢印で2 数学
3 保健体育4 商業のペ
ージに進む

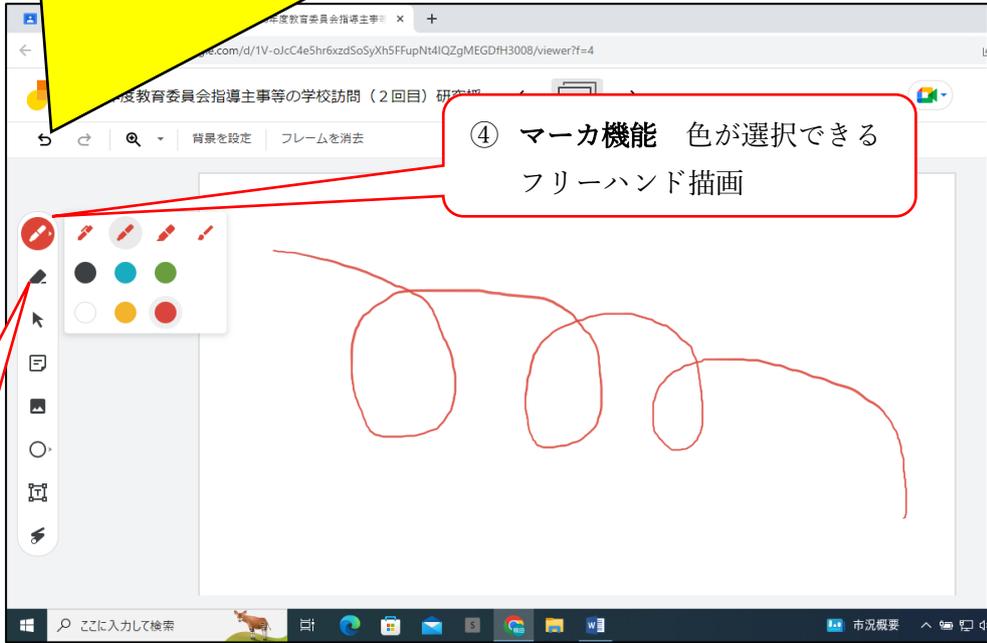
数学

よい点 課題 改善の手立て

③ Jamboard の
シート例は
数学



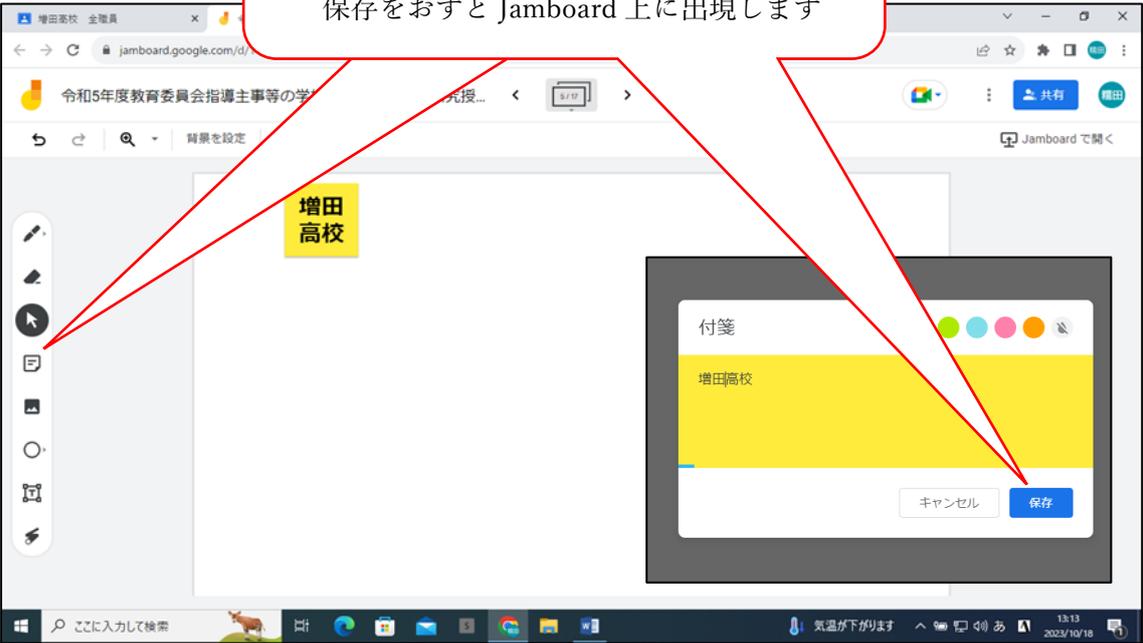
注意：リターン（戻る）ボタンは協働作業中は絶対に押さないでください！
ほかのシート(ページ)で行っている協働作業がすべて同時に戻ってしまいます。

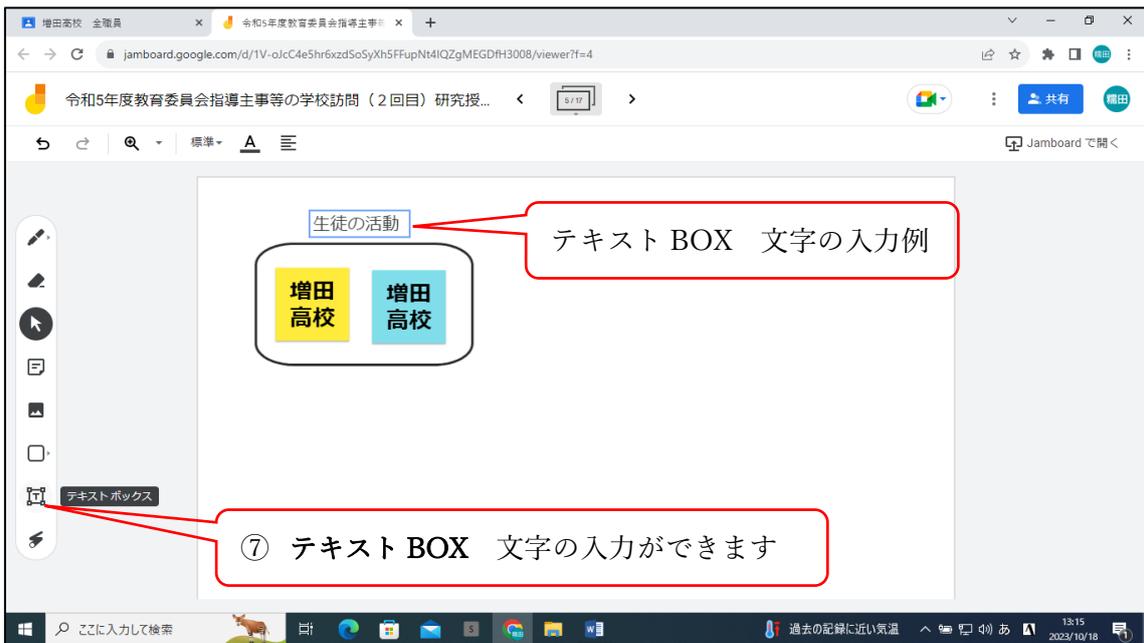
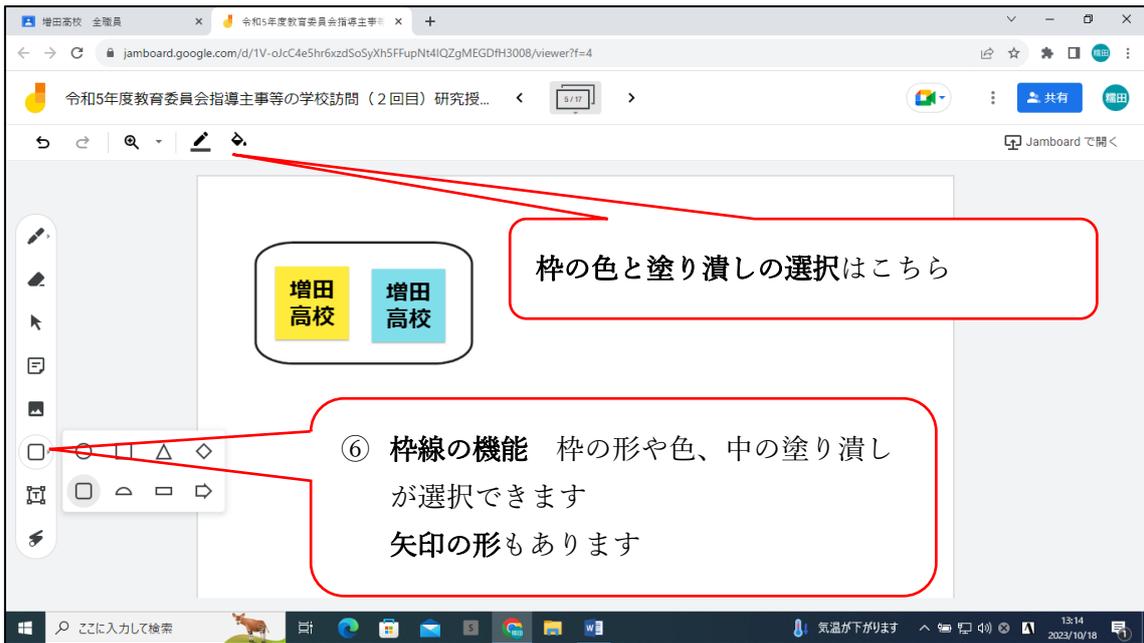


④ マーカー機能 色が選択できる
フリーハンド描画

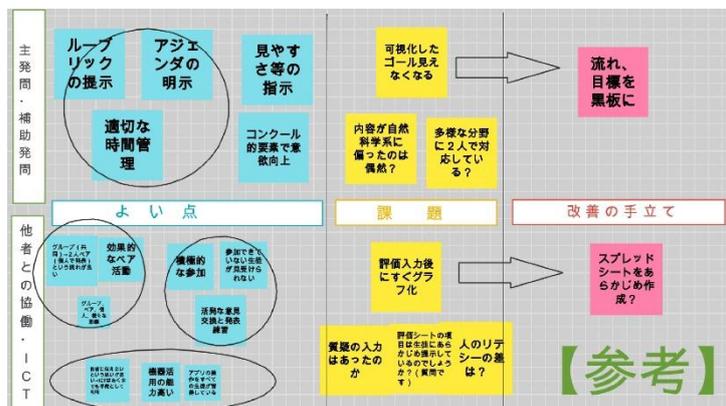
マーカーを消したいときは消しゴム機能で消してください

⑤ 付箋紙機能 付箋紙の色が選択でき、
文字が入力できます
保存をおすと Jamboard 上に出現します





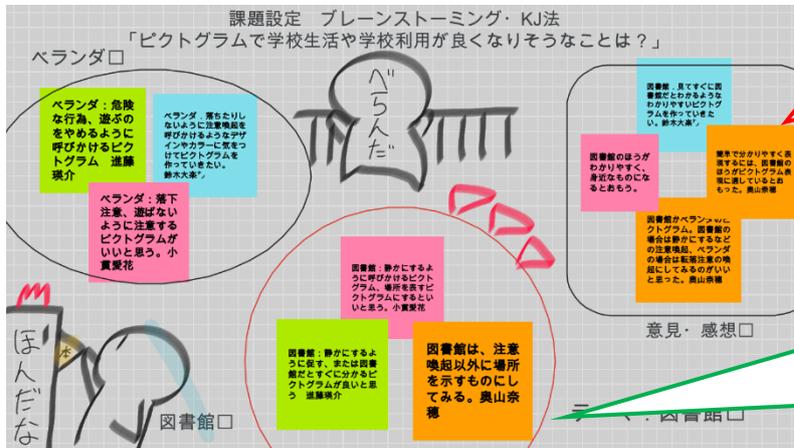
実践例
 よい点：青
 課題：黄
 改善の手立て：赤



Jamboard 活用例

授業での活用展開（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて）

『ピクトグラムデザインをグループ活動で取り組ませた例』（デザイン思考をもとに）



生徒個々のアイデアや考えを付箋紙に名前を記入させて提出させる（発散）

それぞれの付箋紙をもとにグルーピングしながらまとめていく（収束）



グループで確認した内容をもとに生徒個々がデザインを制作 ※Chrome 描画キャンバス or アイビスペイント



自分たちでデザインを用いて現場検証し、効果について相互に確認。改善点を見いだし探究的な学びに繋げることが可。

タブレットがあれば、その場で写真をとることができるので Jamboard のシートが学びの記録としても活用できる。そのままグループの発表や評価にも活用可。ペン機能もあるので、フリーハンドでの記入もできる。例は空いたスペースにイラストを描いてグラフィックレコーディング効果をねらっている。

令和5年度第3回職員研修：メンタルヘルスについて

令和5年度 第3回 校内研修会 要項

研 修 部
生徒指導部

- 1 目 的 メンタルヘルスとそのケアについて理解を深め、今後の相互のメンタルヘルス不調の早期発見・早期対処に生かす。
 また、指導の伝わりづらい生徒への関わり方やその保護者との連携・対応等について事例から学ぶ。
- 2 期 日 令和5年12月11日（月）
- 3 時 間 16：00 ～ 16：30
- 4 場 所 会 議 室
- 5 講 師 本校スクールカウンセラー（臨床心理士）
- 6 演 題 「メンタルヘルスについて」
- 7 対象者 増田高等学校教職員
- 8 その他
 (1) 講話は30分程度を予定。

1	開 会
2	講師紹介（担当）
3	講演
4	謝 辞（校長）
5	閉 会

 (2) 講師の控え室は相談室とする（講話終了後相談室でカウンセリング）
 (3) 講師にお茶とおしぼりを準備する（おしぼりは事務部に依頼）
 (4) 諸係 ・会場・資料準備： 生徒指導部，担当（生徒指導部・研修部）
 ・司会・講師紹介： 担当（生徒指導部・研修部）
 ・講師案内： 研修部 主任
 ・記 録： 研修部 記録係

講演内容 「メンタルヘルスについて」

1 心の健康について

- ・喜怒哀楽は一直線上にある。一つが動かなくなると他の3つも動かない。他のものが働かないと他の3つも働かない。例えば、鬱の状態にあると、その人は他人を怒らないし、辛い顔も見せなかったりする。強いだけでは、心は折れてしまう。「今日泣いても明日笑える」ような、しなやかな心であるとよい。
- ・個としての自分と社会的な存在としての自分を分けて考える。個としての自分と社会的な存在としての自分は、相互にぶつかることもある。ヒトの脳新皮質の発達には社会の高度化によるもの。社会性を身につけるために脳新皮質は発達した。社会を維持するには社会的好ましさがしつけられてきた。この社会的好ましさがなければ生きていけないかという、必ずしもそうではない。社会的好ましさの欠如が必ずしも危うさにつながるものでもない。他人に対し、哀れむ心があると適応が良いとされる。一つの目安として「ありがとう」・「ごめんなさい」が言える状態にあるかどうか。

2 「気質」から考える

- ・内向型と外向型に分けられる。自分の中の価値観に判断基準がある・興味関心が自身の内面に向く内向型と、逆に外や他人の価値観に判断基準がある・興味関心が外界に向く外向型である。興味・関心、物事の判断基準がどこにあるか、他との関係性が見えてくるか、と気質から考えることができる。個人差があるものであり、無意識に調整したりもするものではある。
- ・自我境界（意識・無意識）の性質による違い、「自我境界」（内界と外界の通気性）も人によってそれぞれである。無意識の部分が大きいと、思ってもいないことを言ったりやったりする。意識・無意識の境界が明確ではない状態だと、統合失調症に見られる幻聴のように、自分の心の声が他人の声として聞こえることがある。幻視は幻聴とは違い、あくまでも脳の疾患である。

3 自立と孤立（河合隼雄の言葉より）

- ・これは日本人が皆苦手とするところだが、「助けてくれ」と言える力をつけてほしい。私自身もどうしてもできない時には誰かに担当を代わってもらおうということはある。「ちゃんと困ること」ができていくかどうか。「悩める」というのも能力の一つである。
- ・自分自身の悩みを知覚し、大変だということを知覚し、周囲へ・自分以外へ伝えることができるかどうか。困った事態になっていることを知覚できることは「悩める力」があるということ。自然の摂理とかい離れた「社会」で生きていくにはどうしても無理があることであり、大変である。その大変だということを知覚し伝えることができるかどうか。

4 モデルとなり得る大人とは

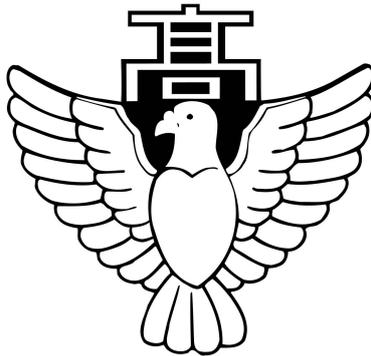
- ・エリクソンの発達段階理論では、ネガティブな面を体験してもなお、頑張れる力、失敗を乗り越える大人の姿を見せるのがよい。失敗しない大人ではなく失敗を乗り越える大人像を見ることで、「自分も頑張れそう」となる。

5 SCの役割

- ・私たちSCは、学校の主役である先生と生徒さん（親御さん）を「繋ぐ（接しやすさの醸造をする）」役割があり、「内向と外向」「気質」の見極め・「悩む力」の発達水準の見極め、等をしている。私たちSCも日々、先生方から「教えること・育てること」を学ばせていただいている。お手伝いできそうなことがありましたらお気軽にお声掛けください。今後ともよろしく願いいたします。

令和5年度

教育委員会指導主事等の学校訪問（2回目）



令和5年10月30日（月）

秋田県立増田高等学校

1. 訪 問 日

令和5年10月30日（月）

2. 訪 問 者

高 校 教 育 課	指 導 主 事	近 藤 俊 春 先 生（ 商 業 ）
高 校 教 育 課	指 導 主 事	高 橋 大 先 生（ 数 学 ）
保 健 体 育 課	指 導 主 事	高 階 和 也 先 生（ 保 健 体 育 ）

3. 当 日 の 日 程

校 時 ・ 時 間		内 容	場 所 等
1	3校時 10:50 ~ 11:40	学 校 説 明	◇場所：校長室
2	4校時 11:50 ~ 12:40	諸 表 簿 閲 覧	◇場所：会議室
	12:40 ~ 13:20	昼 食	
3	5校時 13:20 ~ 14:10	全 体 の 授 業 参 観	
S H R 終 了 後、一 般 生 徒 は 放 課			
4	6校時 14:30 ~ 15:20	研 究 授 業	①商業 ◇場所：2年4組教室 ②数学 ◇場所：3年2組教室 ③保健体育 ◇場所：第一体育館
5	15:30 ~ 16:15	研 究 協 議	①商業 ◇場所：1年4組教室 ②数学 ◇場所：2年2組教室 ③保健体育 ◇場所：1年2組教室 ※参観した授業の部会に参加する。
6	16:25 ~ 17:00	全 体 協 議	◇場所：会議室 1 校長あいさつ 2 指導助言 近藤 俊春 先生 高橋 大 先生 高階 和也 先生 3 校長あいさつ

<授業参観・研究協議の教室>

○原価計算	(商業)	:	[研究授業] 2年4組教室	[研究協議] 1年4組教室
○数学探究 a	(数学)	:	[研究授業] 3年2組教室	[研究協議] 2年2組教室
○体 育	(保健体育)	:	[研究授業] 第1体育館	[研究協議] 1年2組教室

<授業参観の観点>

- 次に示した「研究テーマ」を観点として授業参観を行ってください。
- 授業参観を行いながら、気づいたこと（よい点・課題・改善の手立て）をメモしておいてください。研究協議の際に使用します。

[研究テーマ]

「生徒の主体性を引き出し、『分かる』につなげる授業展開の工夫」

～ICTの効果的な活用を通して～

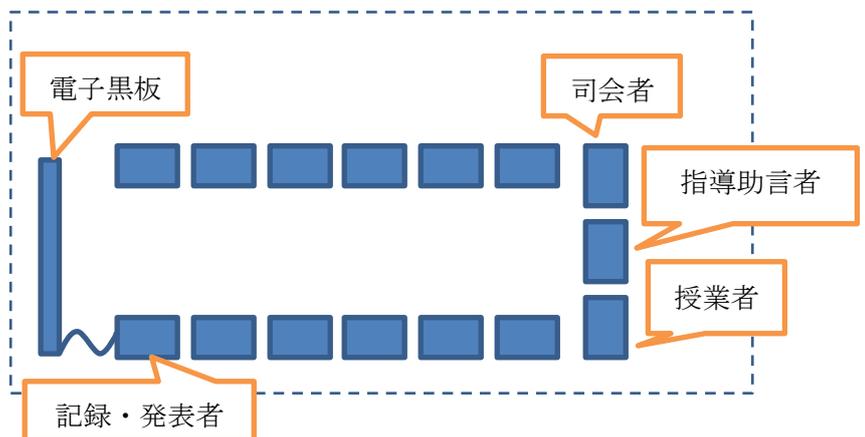
<研究協議の進め方>

- ① 授業者による説明 (5分)
- ② 付箋への記入 (5分)
- ③ 意見交換 (20分) ※Jamboard を活用したワークショップ形式
- ④ まとめの発表 (5分)
- ⑤ 指導助言 (10分)

[付箋紙の使い方] ※端的に記入してください。
青 : よい点 黄 : 課題 赤 : 改善の手立て

<研究協議時における準備>

- ① 参加者各自タブレット端末の準備 (タブレットの借用等)
- ② 電子黒板と会場教室の整備 (右図は一例です)



<研究協議の進め方>

- ① 授業者による説明 (5分)
- ② 付箋への記入 (5分)
- ③ 意見交換 (20分) ※Jamboard を活用したワークショップ形式
- ④ まとめの発表 (5分)
- ⑤ 指導助言 (10分)

[付箋紙の使い方] ※端的に記入してください。
 青 : よい点 黄 : 課題 赤 : 改善の手立て

時間	活動内容と流れ
15:30	<p><司 会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○開会の言葉 「これから___科の研究協議を始めます。」 ○指導助言の先生の紹介 「指導助言をいただく先生をご紹介します。〇〇課 指導主事の___先生です。本日はよろしくお願ひします。」 ○授業者から 「それでは、授業者の___先生から本日の授業について説明していただきます。」 <p><授業者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業についての感想 (本時のねらいと実際、反省点、アドバイスを得たい点など)
15:35	<p><司 会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○付箋の準備 「それでは、ワークショップを始める前に、付箋の準備時間を取ります。気づいたことを付箋にまとめてください。付箋は、よい点については青色を、課題については黄色を、改善の手立てについては赤色を使用して、端的にまとめてください。」
15:40	<p><司 会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ワークショップの開始 「それでは、これからワークショップ形式で意見交換を行っていただきます。16 時になりましたら話題となった内容について 5 分程度でまとめの発表をしていただきます。発表は記録者をお願いします。」 <p><ワークショップ進行者・授業参観者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 人ひとり付箋を貼りながら意見を述べていく。 ・ 内容が似ている事項はグルーピング、反する意見は矢印で示すなど、協働しながら工夫してまとめる。まともり毎にタイトルをつける。
16:00	<p><司 会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○まとめの報告 「それでは、話し合った内容を発表していただきます。5分程度をお願いします。」 <p><記録・発表者></p> <ul style="list-style-type: none"> ○記録者による発表 (5分程度)
16:05	<p><司 会></p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導助言 「最後に、___先生より指導助言をいただきます。」 ○閉会の言葉
16:15	<p>「これで___科の研究協議を終わります。ありがとうございました。」</p>

令和五年度 教育委員会指導主事等の学校訪問

生徒の主体性を引き出し、「分かる」につなげる授業展開の工夫

～ICTの効果的な活用を通して～

2．数学 3．保健体育 4．商業

協議会用 Jamboard



増田高等学校

数学

最小値のパターンが何パターンあるのかという問いは生徒に考えさせてもよいのでは

クイズは2次関数まででよかったのでは

導入は、本日の原題(課題)につなげる練習にする

改善の手立て

得意な生徒と苦手な生徒のグループ化をすることで、教え合いの場がでるので

事前にグレイブスソフトを操作する時間があった

動画やアナログの道具でも十分に考えられる。

ソフトの操作に手間を取っていた。

グレイブスソフトの操作に少し手間取っていた。

数値がずれていたので動線いじりやすい。生徒は代入していい。

導入のクイズと展開へのつながり

クイズに5分の予定だったが15分を要した。生徒にとっては段階的に理解を深められる良い手立てだったのではないかと。

導入としてはクイズの数・種類が多かったのでは？

導入の問題は面白かったが、時間がかかった。

導入について

課題

2次関数の軸に焦点化した解答の紹介

クイズの効果を高める手立て(既習のノート、プリント確認等)

グラフ作成ソフトの性能について

授業者の技能

生徒に十分考えさせ、様子を見ていた

グラフを面の中でイメージ化させるソフトが効果的だと感じた。

答え方の提示の仕方が明確だった

目標をプリントで提示し、電子黒板でも説明した

タイミング良くヒントを提示

よい点

タブレットを用いて笑顔で課題に取り組んでいた。

生徒に考える時間がある

投影機で時間短縮

書画カメラの使い方

ICT機器活用 の効果

発問

生徒の主体性 ICT

発問

生徒に聞きやすい声とスピードで指示をしていた。

各グループを回って助言していた

準備体操で負荷をかけた運動が良かった

撮影した映像と手本の映像確認後のパスが安定していた。

手本の動きと自分の動きの間に動きのずれがあるように感じることが多かった。

終了時に同様にストレッチなどがあったように思えた。

振り返りがほしい

指導者のグリップ毎のアドバンスに時間がかかっているのが大変

保健体育

次の時間に振り返りの時間をとって欲しい

動画編集のポイント(①)が理解すると良かった。

ポイントの説明や、体の使い方、スクリーンを使った説明が望ましい

ポイントの説明が大きいと良かった。

動画を観たあと実際の手本があっても良いと感じた

自己観察、他者観察のため面白い動き、悪い動きの確認が必要と感じた。

全員で動画を観る時間はポイントがあればポイントの共有ができる

生徒の主体性 ICT

巡視が明確で生徒たち参加しやすい環境

挨拶や準備運動に動きが多く、動きの準備ができていた。

タブレットの扱いや使い方を指示

男女とも積極的に活動できていた

昨日の春高ハレー決勝の話良かった

客観的な視点で話し合いができていたように指導できていた

課題

整列が整っていない

球出しの仕方を示す

改善の手立て

生徒同士での話し合いをさせても良かったかもしれない

見学者も客観的な視点での他者観察に参加させる

全体への指示の徹底

デジタルイマージの使用

商業

意見→ヒント・キーワードの例示

パワーポイント等のプレゼンソフトを利用した方がプリントを書画カメラに写すよりは見やすいのでは

例があると良い

改善の手立て

差異分析に工夫をこらしたほうがよい

「気づき」という生徒の内面的活動を評価してあげると良かったかもしれない。

教員側の具体例が多いと生徒の書きづらさはないか

差異分析①の発問や学習課題の設定の仕方

課題

フレーム内に「対策」に明示されたほうが

ペア、グループでの協議では直接の意見交換が必要では

付箋増えないうち→例示が多かった

机の並び方、話し合いが進むように少し向き合うとか

授業の組み立て方や仕掛けがよい

想像力を高めることができた

メリハリのあがる授業

単なる計算問題を解かない

視覚的かつ時間をかけずに意見を共有できた

よい点

場面に合わせたICT機能の使い分けが効果的だった

ICTを活用したわかりやすい授業展開だった。

タブレットで見出しを出しやすい

jambordによる意見共有はリアルタイムで行えるので生徒も緊張感を持って取り組める

ICT使用で良い

ICT機器の操作が良い

発問

生徒の主体性 ICT

数学探究a 学習指導案

日時 : 令和5年10月30日(月) 6校時
対象生徒 : 数学探究a 選択者(24名)
場所 : 3年2組教室
指導者 : 奥 健悦
使用教科書 : ファイン共通テスト数学I・A・II・B
(第一学習社)

- 1 単元名 ファイン基礎編 数学I 2次関数
- 2 単元の目標 定義域が変化する2次関数の最小値を、場合分けを用いて求められるようになる。
- 3 指導に当たって

- (1) 単元観 2次関数は、1次関数に次いで基本的な関数であり、物体の落下などの具体的な自然現象を表すことができる関数でもある。生徒にとっても興味をもつことができる内容である。1年次の数学Iで既に学習しているが、関数の値という基本的事項や、定義域が変化する場合の最大値・最小値という発展的な内容を十分に理解していない生徒も多くいるので、この単元を通して基本を確認し、発展的な内容を理解してもらいたい。

単元計画 ファイン基礎編 数学I・2次関数

- 1章 数と式・集合と論理 (3時間)
2章 2次関数 (3時間) (本時3時間/3時間)
3章 図形と計量 (3時間)
4章 データの分析 (3時間)

- (2) 生徒観 3年生になり1学期から進路活動に力を入れる過程で、授業に集中して取り組む生徒が多くなった。しかし、中学校時代から数学全体に不安を抱えている生徒が多く、自分の考えを積極的に発言することは少ない。関数の意味を理解していない生徒が若干いる。変数が増えた場合、問題文を理解できなかつたり、イメージをもてず解き出すことができなかつたりすることが予想される。基本的な計算規則が苦手な生徒もおり、平方完成などの式変形を誤ることが予想される。計算の過程を示す場合は、特に意識して丁寧に示したい。

本時は既習内容である「2次関数」の最小値を扱う。グラフの描画が定着していない生徒も多いと思われるので、簡単なグラフ描画の確認から始める。定義域が変化する場合の理解を促すために、GRAPES-light Web版を用いて考えさせる。

- (3) 指導観 定義域が変化する場合の最小値を、場合分けをして考える内容である。具体的な場合については、グラフと定義域から求められる。しかし、定義域が変数を含むと状況がイメージできず解答できないことや、状況を図で表せたととしても、不等式で場合分けを表せないことが考えられる。今回の授業では、生徒の理解を促すためにGRAPES-light Web版を用いて、定義域の変化を動的に観察させる。自分で数式を入力すること、そして自分の操作でグラフが変化するという経験をとおして、本時の目標の達成だけでなく、数学に対する興味を喚起したいと考えている。

- 4 本時の学習活動 定義域が変化することで、最小値をとるときの x の値が変化することに気づく。どのような場合に、その最小値をとるのか場合分けできるようにする。定義域の変化とそのグラフの理解を促すためにGRAPES-light Web版を利用する。

- (1) 本時の学習目標 (評価規準) **【数学への関心・意欲・態度】**
自分で具体的な定義域を考え、最小値を求めてみようとする。
【数学的な知識・理解】
場合分けする際に、不等式を立てて条件を示すことができる。

- (2) 本時の指導にあたって 本時は既習内容の発展問題のため、導入と展開の初めで基本事項の確認を行う。生徒の定着の程度は様々であり、授業に積極的に参加させる上で必要である。初めから生徒だけで最小値を見つけ出すのは難しく、やや教授的に進める場面もある。自ら入力した数式で定義域の変化をグラフィック化し、動的に示すことで、生徒の理解を促し、興味関心を喚起したいと考えている。

(3) 指導過程 {評価の観点・・・①関心・意欲・態度 ②見方・考え方 ③技能 ④知識・理解}

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	クイズ：次の関数の最小値を述べよ。(1問10秒で5問出題) 答え方 「〇〇のとき、最小値◇◇をとる」	「関数の値」が「yの値」であることを確認する。 定義域がある場合の問題にも触れ、端点の確認を意識させる。 クイズ実施後に、本時の学習シートを配付する。	(観点①)
	本時の目標の確認 目 標：2次関数の最小値を、場合分けを利用して考えよう。		
展開① (8分)	課題①：次の2次関数の最小値を求めよ。 $y = x^2 - 4x + 2 \quad (1 \leq x \leq 5)$	最小値を考えるために、 →グラフを描く。 →グラフを描くために、頂点や端点を調べる。 →頂点を調べるために、平方完成をする。 これらの見通しをもって考えられるようにする。	(観点④) ・グループでの共有の仕方を説明する。
展開② (30分)	課題②：次の2次関数の最小値を求めよ。 $y = x^2 - 4x + 2 \quad (t \leq x \leq t + 2)$	tの値を具体的な数にして最小値を考える。 定義域の変化を動的に見るために、タブレット端末のブラウザから、GRAPES-light Web版を操作する。 GRAPES-light Web版に数式を入力して、tの値を連続的に変化させ定義域を動かす。 最小値と定義域の位置の関係の条件を、不等式で表す。 結論をまとめる。	操作方法は配付した学習シートに載せ、説明に時間をかけないように留意する。 ・(観点④)
整理 (7分)	振りかえり	・本時の要点をノートに記入する。 ・感想を書き、発表する。	・友人のシートと自分のシートを比較し、必要な用語を追記する。

(4) 本時の評価

評価項目	評価の視点 [判断基準]		努力を要する生徒への支援
	十分満足できる[A]	おおむね満足できる[B]	
関心・意欲・態度	GRAPES-light Web版に数式を入力し、tの値を変化させて、場合分けのための不等式を立てようとする。	GRAPES-light Web版に数式を入力し、tの値を変化させて、最小値をとる点を見つけようとする。	隣席の生徒の協力で数式を入力できるようにする。
数学的な知識・理解	グラフと定義域の関係を不等式で表し、最小値を求め、すべての結論をまとめることができている。	ある場合について、グラフと定義域の関係を不等式で表し、最小値を求めることができている。	机間指導により直接説明をする。

保健体育科学習指導案

日 時	令和5年10月30日(月) 6校時
対 象	1年3組
場 所	第1体育館
授業者	押切信人・鈴木 邑

1 単元名 球技 ネット型 「バレーボール」

2 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、役割に応じたボール操作や、作戦に応じた技能で仲間と連携したゲームを展開すること。ネット型では、役割に応じたボール操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等)
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 単元と生徒

(1) 単元観

バレーボールは、ネットをはさんで対するチームが、ボール操作や連携した動きを取り入れながら、ボールを相手コートに落とすことによって得点を競い合うことを楽しむ運動である。プレイヤーはボールの扱い方の他に、ボールの行方を常に予測して動くことを求められる。また、集団的スキルが重要であり、仲間との協調性や連帯感を高められるスポーツである。

(2) 生徒観

このクラスは男子名、女子名で、男子生徒は運動が好きで多く積極性があるが、グループでの話し合いで意見交換をするなどの活動は苦手である。女子生徒は運動スキルがあまり高くなく積極性に欠ける生徒が多いが、グループでの話し合いなどの意見交換は落ち着いて取り組むことができる。

(3) 指導観

バレーボールは、ボールの扱い方、並びにボールの触れていない間のプレイが大きな意味をもつ競技であることから、まずはボールをコントロールできるスキルを身につけさせたい。また、ラリーを続ける楽しさを味わえるよう仲間との連携を重視しながら、コート上の空間を意識した攻防をできるようにさせたい。

4 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 技術の名称や行い方のポイントを理解している。 ② 攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げることができる。 ③ 練習やゲーム中の技能を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解している。 ④ ゲームのルール、審判及び運営の仕方を理解している。	① 自己やチームの課題を発見し、解決に向けて取り組み方を工夫している。 ② よりよいプレイに向け、仲間に自己の考えを伝えている。	① 自己やチームの課題解決に向けて、互いに教え合おうとするなど、自主的に取り組んでいる。 ② 相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとすることができる。 ③ ボールを目的に応じて使用するなど、周囲の安全に配慮しながら参加することができる。

5 単元計画

「バレーボール」(12時間)

1. オリエンテーション、授業の流れの説明(1時間)
2. パス、サーブ、スパイク等基本的技能の習得、ミニゲームの実施(4時間、本時2/4)
3. 集団的技能の習得、ミニゲーム、審判法の習得(3時間)
4. ゲーム(4時間)

6 本時の計画

(1) 本時の目標

- ・パスの行い方のポイントを理解することができるようにする。(知識及び技能)
- ・技能の向上や分析の仕方に、自己観察や他者観察があることを理解できるようにする。(知識及び技能)

(2) 本時の展開

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> ○整列、挨拶 ○準備運動 ○本時の説明 ・本時の授業内容を確認する。 		
展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ○パス（オーバーハンドパス、アンダーハンドパス）のポイントの確認 <ul style="list-style-type: none"> ・3～5人グループを作り、グループ毎にタブレットを使用して、手本の動画を見ながらポイントを確認する。 ○パスの練習① <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎にパスの練習をしながら、各々撮影をし合う。 ○撮影した映像と、手本の動画を見比べ、課題の解決に役立てる。 ○パス練習② <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の反省をもとに、パス練習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手本となる動画を観ることができるよう補助する。 ○ボールの動く方向を統一し、安全に練習、撮影ができるように補助する。 ○自分や仲間の映像と、手本となる動画を並べて比較できるように補助する。 ○反省したところを意識して練習することを伝える。 	<p>アー① 技術の名称や行い方のポイントを理解している。 (行動観察、反省シート)</p> <p>アー② 練習やゲーム中の技能を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることを理解している。 (反省シート)</p>
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のまとめ ○次回の授業内容の確認 ○挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ○反省シートに、反省を記入するように伝える。 ○パスの行い方のポイントを覚え、仲間と互いに教え合うことを目指していくことを伝える。 	

商業科（原価計算）学習指導案

授業者	藤原一誠（増田高等学校）
対象生徒	2年4組8名
時間	第6校時
場所	2年4組教室

- 1 使用教材 教科書 原価計算（実教出版）
問題集 最新段階式簿記検定問題集 全商1級原価計算（実教出版）
- 2 単元名 第15章 標準原価計算（その2） 2原価差異の計算と分析
- 3 単元目標 標準原価計算の知識と計算方法を活用し、適切な原価情報の提供と効果的な活用ができるようになる。
- 4 単元と生徒
 - (1) 教材観
製造業において、低コスト高品質の製品を製造するための原価管理は欠かせない。そのため、標準原価を用いた分析方法を学習し、適切な原価管理の方法を考えさせたい。
 - (2) 指導観
これまで学習した簿記・会計の知識をもとに、製造業における適切な原価管理について、経営者の視点から考えさせたい。
 - (3) 生徒観
このクラスは男子3名、女子5名で、学習意欲は低くはないが、積極性に欠ける生徒が多い。授業では、1人1人の学習はもくもくと取り組むことができるクラスである。ペアワークやグループワークを通して、客観的な視点で協議していく中で、適切な原価管理の考え方を養わせたい。
- 5 指導と計画
 - ① 1. 実際原価の計算 2. 原価差異の計算と分析（1／3時間・本時）
 - ② 3. 標準原価計算の記帳法（2時間）
 - ③ 4. 記帳と分析の例示（1時間）

学習内容	知識・技術 (A)	思考・判断・表現 (B)	主体的に学習に取り組む態度 (C)
①	原価差異の計算方法を理解している。	原価差異の計算結果をもとに、具体的な分析ができている。	原価差異の計算結果をもとに、どのような分析ができるか協議しようとしている。
②	標準原価計算の計算結果の記帳方法を理解している。	計算結果を正確に帳簿に記帳し、適切な帳簿作成ができている。	標準原価と実際原価の違いを意識しながら帳簿を作成しようとしている。
③	原価差異を分析し、分析結果の意味を理解している。	分析結果から、どのような原価管理をすればよいか周囲へ説明できている。	分析結果をもとにどのような原価管理をすればよいか協議しようとしている。

6 本時の計画

(1) ねらい

実際原価と標準原価を比較して、原価差異の計算方法を理解し、適切な差異分析ができるようになる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を確認する。 		
	<p>本時の目標：原価差異の意味や計算方法を理解し、適切な差異分析ができるようになる。</p>		
	<p>発問：実際原価と標準原価を比較し、どのような分析ができるか？</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配信した資料について個人で考える。 ・ 個人の考えを共有し、グループで協議を行う。 ・ グループで共有したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことでも気付いたことをメモしておくように促す。 ・ 実際原価と標準原価の違いの原因は何かを考えるよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをまとめ、周囲と共有し、考えを深めている。 (C) (発表) (グループワーク)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 製造業における原価差異の計算の必要性と意味、計算方法を確認する。 ・ 原価差異の計算をして、計算結果を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計算が正確にできているか、机間指導をし、確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価差異の特徴と計算方法を理解し、計算している。 (A)
	<p>発問：材料消費価格差異と材料消費数量差異の計算結果から、どのような原因が考えられるか？ また、その分析結果からどのような対策を取るべきか？</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発問について個人で考える。 ・ 個人の考えを共有し、グループで協議を行う。 ・ グループで共有したことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的に製造業ではどのような原因、対策が取れるかをイメージしながら考えるよう声かけをする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原価差異における重要なポイントを全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントを提示しながら、ポイントを簡潔に確認する。 	
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の自己評価を、配信したフォームへ入力する。 ・ 次回の授業内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を達成できたか、また課題はあるかを明確に入力するよう促す。 	

研修報告

初任者研修を受講して

理科（化学） 伊藤 智樹

1 はじめに

初任者研修を通して、教員として必要となる資質、能力の4領域（①基礎的素養、②マネジメント能力、③生徒指導力、④教科等指導力）をご指導していただいた。学校組織の一員としての心構えや新学習指導要領で求められる学び取らせる授業など、教育公務員としての基礎的・基本的な指導力を養うことができた1年であった。以下に、初任者研修を通して身につけることができた成果についてまとめる。

2 校内研修

(1) 一般研修

渡部校長先生、淡路教頭先生、佐々木事務長、指導教官である佐藤先生をはじめ、各先生方からご指導を賜り、本校の教育目標や校務分掌、学校運営などについて理解を深めることができた。また、今年度から初めて担当する担任の役割として、生徒を自立させること、社会に適応する支援をすることであると学ぶことができた。一般研修を通して、生徒の背景や現状を理解し、面談や学級通信など様々な手法で指導に取り組むことができるようになったと感じている。

(2) 教科研修

指導教員による師範授業や授業参観を通して、他教科とのつながりを意識した実験や生徒同士が疑問に思ったことをグループ内で協議し、解決に向かう授業展開を学ぶことができた。また、研究授業と付箋紙ワークショップを通して、講義力と生徒から考えを引き出す力の重要性を感じた。個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、生徒が主体になった授業を実践できるよう、教材研究に取り組みたい。

3 校外研修

総合教育センター主催の研修では、中学校の教員と模擬授業を検討する機会があった。授業展開の方法や、生徒から考えを引き出し方について意見を出し合うことで、教師が主体になった授業ではなく、ファシリテーターとして、生徒の考えを良い方向に導いていくことが必要であることを学ぶことができた。

高校教育課主催の研修では、横手支援学校を訪問し、教員が生徒の目線に立って指導を行い、学校全体が生徒のために安心して成長できる学校環境をつくる重要性を改めて感じることができた。同僚の教員と「どのような支援をすれば生徒のためになるのか」考え、生徒が自身の課題と向き合うことができる環境を整えてあげるよう取り組んでいきたい。

4 おわりに

初任者研修を通して、たくさんの先生方のご指導のおかげで、教員としての基盤を築くことができたと感じている。教員として学び続ける姿勢や生徒と向き合う姿勢を忘れず、生徒一人ひとりに手厚い指導をしていきたい。

教科書：新版 化学 新訂版（実教出版）

1 単元名 3節 酸素を含む脂肪族化合物

2 単元の目標

(1) 酸素を含む脂肪族化合物の構造、性質及び反応について理解するとともに、酸素を含む脂肪族化合物についての観察、実験などを行い、実験器具の操作や、実験結果の記録の仕方などの技能を身につける。

[知識及び技能]

(2) 酸素を含む脂肪族化合物について、観察、実験などを通して探究し、酸素を含む脂肪族化合物における規則性や関係性を見いだして表現する。

[思考力、判断力、表現力]

(3) 酸素を含む脂肪族化合物に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

[学びに向かう力、人間性等]

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元では、理科の見方・考え方を働かせ、有機化合物の性質についての観察、実験などを通して、有機化合物、高分子化合物について理解させるとともに、観察、実験などに関する技能を身につけさせることがねらいである。官能基をもつ脂肪族炭化水素については、アルコールやエーテルの構造、性質及び反応について扱っている。

(2) 生徒観

自然科学系列化学選択者の生徒11名（男子7名、女子4名）である。実験結果の予想を立て、協力して実験に取り組むことができる。発問に対して、直感的に答える傾向があるが、実験結果と発問を関連付け、自身の考えを文章で表現することができる。

(3) 指導観

観察や実験を通して、化学に対する興味・関心を高め、酸素を含む脂肪族化合物の性質を探究する姿勢を養う。その際、対照実験を行うことで、ヨードホルム反応を観察できる条件について仮説を立てさせる。また、クラス全体で仮説を共有し、多様な考えに触れさせることで、生徒の考えを広げ、深めさせる。

4 単元の評価規準

(ア) 知識・技能	(イ) 思考・判断・表現	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
官能基により性質が特徴付けられることを理解している。安全で正確な実験が行える技能を身につけている。	酸素を含む脂肪族化合物について、観察、実験などを通して探究し、酸素を含む脂肪族化合物における規則性や関係性を見いだして表現している。	酸素を含む脂肪族化合物に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

5 指導と評価の計画（総時数7時間 4/7）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	Na との反応や酸化反応などの実験から、アルコールの性質や反応を理解する。	知		実験結果から、アルコールの反応を理解している。
2	代表的なアルコールの特徴とエーテルの性質を理解する。	知		アルコールとエーテルが異性体であることを理解している。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
3	アルデヒドの性質と実験結果を関連付け、アルデヒドの性質を表現する。	思	○	アルデヒドの性質と実験結果を関連付け、アルデヒドの性質を表現している。 [記述分析]
4	ヨードホルム反応実験を行い、ヨードホルム反応を観察できる条件を物質の構造式と関係づけ表現する。	思	○	グループで協力して実験に臨み、話し合いやによって考えを広げ、ヨードホルム反応を観察できる条件を物質の構造式と関係づけ表現しようとしている。[記述分析]
5	代表的なカルボン酸の性質と鏡像異性体について理解する。	知		不斉炭素原子をもつ化合物が鏡像異性体をもつことを理解している。
6	酢酸エチルの合成と分解の実験を行い、エステル反応や性質を理解する。	知	○	酢酸エチルの合成と分解を行い、エステルの反応や性質を理解している。[記述分析]
7	セッケンを合成し、油汚れが落ちる仕組みを表現する。	思		洗浄力や固まりやすさを、脂肪酸含有量やC=C数と関係づけて表現している。

6 本時の指導計画

(1) 目標 【構造式を用いてヨードホルム反応を観察できる条件を表現することができる。】

(2) 展開

過程(分)	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価
導入(3分)	1 ケトンの構造と官能基、名称をプリントに書く。		
展開(44分)	2 2-プロパノールと二クロム酸カリウム水溶液の酸化反応をまとめる。 3 ヨードホルム反応の実験を行う。 4 学習課題の仮説を立てる。 学習課題 ヨードホルム反応を観察できる条件は？ 5 学習課題の確認をする。 6 Q1に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 二クロム酸カリウム水溶液が酸化剤としてはたらくことを復習する。 一人ひとりがヨードホルム反応を観察できる条件について考えをもてるよう、物質の構造式を板書し、個やグループで考察する時間を設定する。 ヨードホルム反応を示す物質の共通点を構造式から見いだす時間を設定する。 	(イ) ヨードホルム反応を観察できる条件を物質の構造式と関係づけ表現しようとしている。 [記述分析]
まとめ(3分)	7 記述式の振り返りとルーブリック評価を行い、授業の振り返りをする。	・振り返る視点や明確な判断基準を設定し、達成度や課題を正確に振り返らせる。	

初任者研修を受講して

商業科 藤原 一誠

1 はじめに

1年間の初任者研修を通して、教育公務員としてあるべき姿やこれからの教員生活についてご指導いただいた。今年度から新教育課程が3学年で実施され、様々な面に変容が必要であった。そのため、校務分掌やクラス経営、授業では試行錯誤を重ねた1年であった。以下、初任者研修を通して自分自身が得た成果についてまとめる。

2 校内研修

(1) 一般研修

一般研修では、本校の教育目標や様々な校務分掌、学校・クラス経営などについて、多くの先生方からご指導いただいた。渡部校長、淡路教頭、佐々木事務長、指導教官である天ヶ谷先生をはじめ、各先生方より多様な研修を実施していただき、教育公務員としての自覚と責任を再認識することができた。研修を終え、学校という組織の役割や責任、重要性を強く意識することができるようになったと感じている。

(2) 教科研修

教科研修では、指導教員の天ヶ谷先生はじめ、商業科の先生方、他教科の先生方のお力を借りながら、自らの専門性の向上や授業力改善につなげることができた。授業実践では、ビジネス会計系列の1年生を対象に行ったが、実力不足ということを感じた。教科商業の特性上、生活に直結する学習内容が多く、それらをどのように生徒に実感・体験させられるかを試行錯誤しなければいけないと強く感じた授業実践であった。

また、来年度よりBYODが進み、生徒の個人端末への関わり方が大きく変容する。商業科として、情報モラルや情報リテラシーに関しての指導もより一層必要になるため、どのように授業の内外で扱うかを検討していき対応しなければいけないことをご指導いただいた。生徒の模範となるよう、ICTの活用も進めていかなければいけないと感じた。

3 校外研修

PA研修や秋田明德館高校での授業研修、横手支援学校への学校訪問等、様々な関係者の方々のご指導を受けることができた。自校では経験しづらいことをご指導いただいたため、今後の教員生活に活かしていきたい。

総合教育センターでの研修では、学級経営や生徒との関わり方、授業作りなど基礎的な

面で教えていただいたことが多かった。しっかりとした基礎の土台を積み上げて、教員としての個性を磨いていかなければいけないと思えた研修内容であった。

4 おわりに

多くの先生方のおかげで、教職公務員としての基礎的な知識や技能を学ぶことができた。これからも様々な先生方のご指導を参考にさせていただき、自分自身の個性を磨き上げたいと考える。また、同期採用の伊藤智樹先生にも感謝したい。伊藤先生の存在があることで、日々の校務や研修をやり遂げることができた。これからも同期として、同僚として、切磋琢磨していきたい。

商業科（簿記）学習指導案

授業者	藤原一誠（増田高等学校）
対象生徒	1年2・3・4組22名
時間	第4校時
場所	1年4組教室

- 1 使用教材 教科書 高校簿記（実教出版）
問題集 最新段階式簿記検定問題集 全商3級（実教出版）
- 2 単元名 第12章 決算（その1） 4 固定資産の減価償却
- 3 単元目標 固定資産の減価償却についての知識と計算方法を学習し、適切な資産管理の方法を考える。
- 4 単元と生徒

(1) 教材観

企業経営をする上で利益を計上することは最重要である。そのため、決算処理を通して、適切な資産管理ができていないかを客観的に判断する力が必要となる。決算整理などの学習を通して、適切な資産管理について考えさせ、生徒の企業経営感覚を養わせたいと考えた教材である。

(2) 指導観

これまで学習した簿記の知識をもとに、固定資産の管理について企業経営の視点から考えさせたい。また、財務情報を正確に作成することで、企業にはどのような利点があるか考えさせたい。

(3) 生徒観

このクラスは男子17名、女子5名で、学習意欲は低くはないが、積極性に欠ける生徒が多い。授業では、1人1人の学習はもくもくと取り組むことができるクラスである。ペアワークやグループワークを通して、客観的な視点で協議していく中で、適切な企業経営感覚を養わせたい。

5 指導と計画

- ① 1. 決算整理の意味 2. 商品に関する勘定の整理（1時間）
- ② 3. 貸し倒れの見積もり（1時間）
- ③ 4. 固定資産の減価償却（1／2時間・本時）
- ④ 5. 棚卸表（1時間） 6. 精算表（1時間）
- ⑤ 7. 帳簿の締め切り 8. 損益計算書と貸借対照表の作成（その1）（2時間）

学習内容	知識・技術 (A)	思考・判断・表現 (B)	主体的に学習に取り組む態度 (C)
①	商品に関する仕訳や計算を理解している。	決算整理の意味を理解し、決算整理が必要な理由を説明できる。	商品の棚卸しの方法について理解を深めようとしている。
②	売掛金の貸し倒れについての仕訳や計算を理解している。	貸し倒れになる理由や貸倒損失になる場合を判断・表現することができる。	貸し倒れにならないようにするための方法を考えようとしている。
③	減価償却の仕訳や計算方法を理解している。	正確な財務情報を伝え、適正な企業経営に役立てることができる。	正確な資産管理ができていないかを周囲と確認しながら協議しようとしている。
④	表の作成方法を理解している。	取引を適切な形式で記帳することができる。	周囲と協力しながら、表の作成を行い、分かりやすい表を作成しようとしている。
⑤	表の作成方法を理解している。	貸借対照表と損益計算書を作成し、2つの表を比較して企業経営が適切に行われているか判断できている。	2つの表の意味の違いを考え、企業がどのような経営を行っているかを考えようとしている。

6 本時の計画

(1) ねらい

企業の財務情報を読み解く活動を通じて、減価償却の概要と計算方法を理解し、減価償却費の正しい計算ができるようになる。

(2) 展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を確認する。 		
	<p>本時の目標：減価償却の意味や計算方法を理解し、正確な計算ができるようになる。</p>		
	<p>発問：ある企業の財務情報の中で、誤っている情報はどれか？</p>		
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 配信した資料①について個人で考える。 ・ 個人の考えを共有し、グループで協議を行う。 ・ グループで共有したことを発表する。 ・ 追加で配信した資料②についてグループで協議を行う。 ・ グループで協議した内容を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんなことでも気付いたことをメモしておくように促す。 ・ 固定資産の金額が変化していないことに違和感を持つような声かけをする。 ・ 資料①と資料②を比較したときに感じたことを共有するよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えをまとめ、周囲と共有し、考えを深めている。 (C) (発表) (グループワーク)
	<p>発問：企業を経営する上で、正しい情報を発信する意味はなんだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 【発問】について個人で考える。 ・ グループで共有し、考えをまとめる。 ・ 固定資産の減価償却の必要性と意味、計算方法を確認する。 ・ 減価償却の計算をして、正しい情報を確認する。 ・ 減価償却における重要なポイントを全体で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確な情報を発信することで、信頼を得たり、適切な判断ができることを説明する。 ・ 計算が正確にできているか、机間指導をし、確認する。 ・ プリントを提示しながら、ポイントを簡潔に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 減価償却の特徴と計算方法を理解し、解答している。 (A)
整理 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の自己評価を、配信したフォームへ入力する。 ・ 次回の授業内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を達成できたか、また課題はあるかを明確に入力するよう促す。 	

実践的指導力習得研修講座（2年目）を受講して

家庭科 福田 菜摘

本研修の目標

学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付ける。

実践的指導力習得研修講座（高等学校）Ⅰ 令和5年5月18日

- ①「保護者対応と連携」（講義・演習）
- ②「学校組織の一員として—学校教育目標とホームルーム経営—」（講義・演習）
- ③「学校教育目標に基づいた学習指導①」（講義・演習）

振り返り

- ①「保護者対応と連携」（講義・演習）

保護者と信頼関係を築くためのポイントや保護者の要求の受け止め方やその後の対応について学んだ。担任2年目となり、昨年度の自らの学級経営や保護者対応を振り返るよい機会となった。保護者とのやりとりは、日頃の電話対応に加え、進路に関する面談や生徒の問題行動があった際の面談など、様々な場面が想定されるため、その状況や目的に合わせて臨機応変に対応していくことが大切だと感じた。今後は、保護者にどう伝わったか、お互いの認識に齟齬が感じられる場合はすり合わせをしっかりと行うことを心掛けたい。

- ②「学校組織の一員として—学校教育目標とホームルーム経営—」（講義・演習）

SWOT分析法を用いたホームルーム分析について理解を深めることができた。自身のホームルーム経営を俯瞰し、具体的な改善事項をイメージすることができた。また、生徒が自分の興味のあることや進路と関連した内容が学べる本校の総合学科の魅力も再確認できた。今後は、日頃の授業や学級経営、分掌業務を滞りなく遂行するとともに、学校の課題に対して、自分自身の業務の範囲内で業務を精選・改善したり、周囲へ具体的な改善策を提案したりする力を養っていきたい。

- ③「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業構想と実践①」（講義・演習）

学校教育目標を踏まえた授業構想について理解を深めることができた。今回は、ICT活用や発問の工夫を軸とした“分かる”授業を意識し、衣生活分野の授業構想を行った。着古した着物の再利用や暖かく着るために刺繍を施した刺し子についての学習を通して、持続可能な衣生活を営むためのヒントを得られるような授業を計画した。

実践的指導力習得研修講座（高等学校）Ⅱ 令和5年8月23日

- 「学校教育目標に基づいた学習指導②」（協議・演習）

事前に行った研究授業について、振り返りを行った。新学習指導要領の内容を踏まえた授業構想はできたが、授業で何を題材とするかに意識が先行してしまい、生徒に身に付けさせたい力の明確化が曖昧であったと感じた。授業で扱う事項も多かったため、ねらいを明確化し、授業内容を精選するとともに、生徒に深い思考を促すための発問の工夫をしたい。

令和5年度中堅教諭等資質向上研修

選 択 研 修 計 画 書

研修教員名	齊 藤 晃 仁	所属校	増 田 高等学校	連絡先	TEL: 0182-45-2073
		校長名	渡 部 剛		FAX: 0182-45-2088

【社会体験研修先等について】

学びたいこと	<p>企業として化粧品の原材料となる植物を栽培するにあたり、日々の業務計画や作業内容の決定がどのような基準で設定されているのかを知り、学校の農場運営の参考にしたい。そのため、朝の業務から就業時間までの作業を全て体験したい。</p> <p>収穫や調整といった作業の時間配分や、全体の栽培計画。植物培養の培養計画。年間の目標収量（設定があるのか）をクリアするために注意していることを知りたい。</p>				
研 修 先	アルビオン白神研究所 清水岱研究棟	所 在 地	〒 018-3205 秋田県山本郡藤里町粕毛字清水岱5-9 TEL:0185-71-4181 FAX:0185-79-1030		
依頼状(礼状) 送付先	〒 018-3205 秋田県山本郡藤里町粕毛字清水岱5-9 代表者 職・氏名 所長 小平 努				
研修担当者名	小平 努	部・課名	所 長		
研修の期日・内容					
月日(曜)	研修時間	主 な 研 修 内 容			
<第1日> 8月8日 (火)	8:55~11:45 11:45~12:30 12:30~17:30	圃場の作業 (収穫・洗浄・乾燥・選別・調整など)			
<第2日> 8月9日 (水)	8:55~11:45 11:45~12:30 12:30~17:30	ブドウの作業(抽出棟の見学を含む)			
<第3日> 8月10日 (木)	8:55~11:45 11:45~12:30 12:30~17:30	米田研究所での培養実験補助(洗い物など)			

※「学びたいこと」には、教育者としての視野を広げるために研修先で取り組んでみたい内容及びその内容から学びたいことなどについて、できるだけ具体的に書くこと。

※「研修先」「所在地」「依頼状(礼状)送付先」「研修担当者名」「部・課名」については、依頼状(礼状)送付等の際に失礼のないよう、誤字・脱字に注意し、正確に記入すること。

令和5年度中堅教諭等資質向上研修

選 択 研 修 報 告 書

所 属 校	増 田 高等学校	職・氏名	教諭 齊藤 晃仁
研 修 先	アルビオン白神研究所 清水岱研究棟・米田研究棟		
研 修 期 間	令和 5年 8月 8日(火) ~ 令和 5年 8月 10日(木)		
<p>1 研修の概要</p> <p>8月 8日(火) 1日目 午前 植物の定植作業・除草作業 午後 セルトレイ苗の間引き 8月 9日(水) 2日目 午前・午後 培地の作製・継代培養 8月10日(木) 3日目 午前 植物の収穫 午後 体調不良のため作業終了</p> <p>今年度、西目高校から増田高校に異動したが、西目高校の卒業生が頑張っている姿を間近で見ただけではなく、一緒に仕事ができ一人ひとりの成長を感じることができた。</p> <p>1日目の午前作業では、今年の豪雨の影響で生育不良となった植物の定植作業を行った。時期としては定植を行う時期ではないが、今までの調査・栽培の結果から、収穫までギリギリ生育が間に合うタイミングであるという事であった。作業が早く終わり、別の区画の除草作業を行った。</p> <p>1日目の午後作業では、セルトレイで栽培している苗を1セル2本にする間引き作業を行った。西目高校の卒業生と一緒に作業し、指示の出し方や作業スピードについて、高校時代とは違いハキハキと行動し、テキパキと作業をしている姿を見て、成長を感じた。</p> <p>2日目は米田研究棟での植物培養実験の体験であった。MS培地の作製2回40枚と、カルススの継代培養であった。企業として、植物培養で得られたカルススから、植物エキスの抽出を目的に大量増殖を行っている。そのような貴重な実験にもかかわらず、無菌操作を行い培養実験をさせていただいた。ここにも西目高校の卒業生がおり、コンタミネーション(雑菌混入)が起こったら教えてほしいとお願いした。隙間の時間で、培養実験で出た器具の洗浄を行った。</p> <p>8月8日(火)からサマータイムを実施しており、生産系の圃場で作業するメンバーは7時出勤で作業を行っていた。3日目は7時から植物の収穫を行った。3種類の植物を収穫し、コウスイハッカは植物体全体、ウイキョウは種子、ヤグルマギクは花と、それぞれ収穫部位が異なり、収穫の基準も異なっているため、繊細な判断を必要とした。</p> <p>日々の作業は、それぞれの植物の生産目標量を元に今までの栽培・収穫量の調査結果から逆算して計画される。必要な収穫量を確保するための栽培計画を元に、定植時期や株の数、日々の作業量が決まってくる。</p> <p>2 研修の成果(今後への生かし方も含むこと)</p> <p>お客様へ安心・安全を提供するために、自社の製品原料を自社で生産するという試みは、農産物を生産・販売することとはまた違った難しさがあると感じた。植物によって収穫部位が、植物体全体や花、種子、カルススなど異なっており、判断の難しさを体験することができた。特にヤグルマギクの収穫は、収穫すべき花の色を判別するために、繊細な感覚が必要だと感じた。</p> <p>収穫したら食べることができる農産物とは違い、化粧品原料は、多くの人の手を借りて、様々な工程を経てやっと一つの製品になる。丁寧な仕事から生まれた、丁寧な原料から作られる化粧品という商品は、確かな付加価値を持って販売され、その価値に見合った値段で取引される。原料の生産から、製品の開発までを一貫して行うことができるという強みを実感するとともに、自社商品に対する自信、自分達が作った原料が世界で通用する商品になるという事実は、農業という枠を超えてやりがいのある仕事だと、改めて感じた。</p> <p>農業立県秋田と言われているが、まだまだ水稻に頼った農業経営が主流となっている。今回の研修では、新たな付加価値をどのように付けていくか、どのように販売するか、といった経営という視点から農業について考える良い機会になった。農家にも企業感覚が必要と考えているが、高校教育では、生産技術に主眼を置いていることは間違いない。そのため、農家としての経営力を身に付けた人材育成ができるようになりたいと考えている。農業教員として秋田県農業の発展に寄与できるよう、努力していきたい。</p>			

特 定 課 題 研 究 レ ポ ー ト

所 属 校	増田 高等学校	職・氏名	教諭 齊藤晃仁																					
研究内容	A：本県の教育課題に関する研究 B：マネジメントに関する研究 C：生徒指導に関する研究 ◎：教科指導に関する研究 E：道徳教育に関する研究 F：特別活動に関する研究 G：総合的な探究の時間に関する研究 H：特別支援教育に関する研究 I：その他																							
研究テーマ	教科指導による学び直しと学校生活への影響について																							
<p>I 研究の概要</p> <p>農業科目では面積の計算や、濃度の計算、長さや質量、体積など、様々な計算や単位を扱う。これまでの経験から、農業で扱う計算問題だけではなく基本的な計算でつまづいている生徒が多く、数字や計算問題を見ただけで、「苦手だ」「分からない」「できない」という言葉を聞く。基礎的な学力の低い生徒は授業についていくことが出来ず、学習意欲が低下し、進路変更することが多い様に感じている。楽しく学校生活を送る為にも、生徒一人ひとりの「苦手だ」「分からない」という気持ちを変化させることで、学校生活に対するモチベーションを上げられるのではないかと考えた。</p> <p>○目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 今回の特定課題として、【授業の中で「苦手なこと」「できないこと」が「できるようになる」と、学校生活が楽しくなる】という仮説を立て、「農業の計算問題に自信が持てるようになる」ことを目標にした。 入学当初から「就農したい」という生徒がいるクラスである。農業関連の研修が多く設定されているため、農業に対する意識調査を行う。また、農業の授業が他の科目に対してどのような影響を与えているかについて意識調査を行う。 学校生活に対する感じ方の変化について意識調査を行う。 <p>○方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象生徒は担任をしている農業科学科1年生34名 4月～1月の9カ月間の間に5～7回の計算テストを行う 授業の最初（10分程度）に計算問題の小テストを実施して問題の解き方を解説する 1月に過去と同じ問題を実施し自分の力を確認する アンケートによる意識調査を実施する <p>○留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初からできないことについては、気にしないように指導した。 今できないことは、これからできるようになればいいというメッセージを繰り返し伝えた。 「分からないから書かない」と自分のつまづきに気づかないので、どんどん間違った答えを書くように伝えた。また、その方が指導しやすいことを伝えた。 「解けない」「分からない」のは頭の良し悪しではなく、問題を解いた経験や体験の差であると伝えた。 担任として「できた方がいい事」が「できない」のを知っていて、そのままにはできないという話をした。 <p>○計算テスト</p> <table border="0"> <tr> <td>1回目</td> <td>4月17日(月)</td> <td>掛け算・割り算の確認</td> </tr> <tr> <td>2回目</td> <td>5月17日(水)</td> <td>食塩水濃度計算</td> </tr> <tr> <td>3回目</td> <td>6月21日(水)</td> <td>単位変換</td> </tr> <tr> <td>4回目</td> <td>9月11日(月)</td> <td>農業の培液計算(希釈方法)</td> </tr> <tr> <td>5回目</td> <td>10月11日(水)</td> <td>肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象</td> </tr> <tr> <td>6回目</td> <td>12月18日(月)</td> <td>計算方法の確認・復習</td> </tr> <tr> <td>7回目</td> <td>1月24日(水)</td> <td>肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象</td> </tr> </table> <p>※掛け算や割り算、単位の変換、濃度、割合の計算、分数に困難を抱えている生徒が多いと感じた。 (A4判1～2枚程度、研究に関わる資料等があれば添付すること)</p>				1回目	4月17日(月)	掛け算・割り算の確認	2回目	5月17日(水)	食塩水濃度計算	3回目	6月21日(水)	単位変換	4回目	9月11日(月)	農業の培液計算(希釈方法)	5回目	10月11日(水)	肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象	6回目	12月18日(月)	計算方法の確認・復習	7回目	1月24日(水)	肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象
1回目	4月17日(月)	掛け算・割り算の確認																						
2回目	5月17日(水)	食塩水濃度計算																						
3回目	6月21日(水)	単位変換																						
4回目	9月11日(月)	農業の培液計算(希釈方法)																						
5回目	10月11日(水)	肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象																						
6回目	12月18日(月)	計算方法の確認・復習																						
7回目	1月24日(水)	肥料の計算(成分含有量や散布量)比較対象																						

Ⅱ 成果と課題

○計算テストの比較について

10月11日(水)と1月24日(水)に実施した「肥料の計算」で比較をした。

※問題数は6問

実施日 10/11 1/24

全問正解者 5人 9人

全問不正解者 17人 6人 前回よりも得点が上昇した数17人 ※対象者30人

・約57%が前回よりも問題を解けていた。

・全く解けなかった生徒の割合が約57%から10%に減少した。

○アンケート内容

※アンケートの内容・分析は別紙参照

○成果 ※対象生徒はアンケートに参加した30人としている

1. 【授業の中で「苦手なこと」「できないこと」が「できるようになる」と、学校生活が楽しくなる】
「農業の計算問題ができるようになる」について

実際の計算テストの結果から繰り返し指導や確認をすることで、2回計算テストが100点の人を除き、約57%の生徒が1回目よりも2回目の計算テストの点数が良かった。

アンケート結果から、計算問題に少しでも自信が持てたという生徒が23.3%から36.7%に増加した。

2. 農業に対する意識調査について

総合実習や校内外の研修が、農業に興味を持つために役に立ったという生徒が90%以上となった。

農業の学習が、他の教科の勉強に良い影響を与えていると考えている生徒が90%となった。

3. 学校生活が「楽しい」「少し楽しい」と答えた生徒が86.6%になった。アンケート結果から、「苦手なこと」が「できるようになる」ことで、学校生活が楽しくなると感じている生徒が約76.7%いることが分かった。

○課題

1. 1回目の計算テストで0点を取ったのが17人。2回目の計算テストでも0点を取った生徒が6人と、全く解けない状態から抜け出せた生徒が11人となった。

多くの生徒が、「苦手なこと」が「できるようになる」ことで、学校生活が楽しくなると感じており、計算問題について「できるという自信が無い」から全体的な改善の傾向が見られる。しかし、

①「できるという自信が無い」を2回選び、2回の計算テストで0点を取っている生徒が3人

②「できるという少し自信がある」を2回選び、2回の計算テストで0点を取っている生徒が1人

③「できるという自信が無い」から「できるという自信はあまり無い」に変わって、2回の計算テストで0点を取っている生徒が1人

④「できるという自信はあまり無い」から「できるという自信が無い」に変わって、2回の計算テストで0点を取っている生徒が1人

以上の結果から基本的な計算能力でつまづきを抱えている生徒と、自分の能力について客観的に判断できない生徒、自分の能力に気づいた生徒が存在していること考えられる。今回の計算テストで、解けるようになった生徒と、できるかもしれないと少し前向きな気持ちになった生徒がいる。しかし、まだまだ計算問題が「できない」生徒も「自信が無い」生徒もいるため、学び直しの機会を設定し、「できるようになった」という実感を持たせられるようにしたい。

2. アンケート内容を見ると、不登校傾向のある生徒については、校内外の研修に参加していないため、農業の研修や行事について、農業に興味を持つためには「役に立たなかった」と回答していた。授業の取り組みに積極性がない生徒や部活動を辞めた生徒については、「できるようになることと学校生活は関係ない」「あまり楽しくない」と考えていることが分かった。

研修や行事に参加した生徒は、農業について理解を深め、仕事としての「農業」について考える機会となっていることが分かった。今後の研修計画の参考としたい。

3. 農業科目や研修・行事に対する評価が高いことから、農業学習以外の要因か、勉強以外の要因で学校生活が「あまり楽しくない」と感じている生徒が13.3%いる可能性が示唆された。今回の調査では具体的にどのような要因で学校生活が「あまり楽しくない」と感じているのかは分からないため、面談をとおして問題の発見や、困っていることが無いかを確認したい。

今回の特定課題から【授業の中で「苦手なこと」「できないこと」が「できるようになる」と、学校生活が楽しくなる】と76.7%の生徒が感じている。そのため、「苦手なこと」や「できないこと」を克服することで、学校生活が楽しくなる可能性が示唆された。

(A4判1～2枚程度、研究に関わる資料等があれば添付すること)

I. 計算テストのまとめ

整理番号,	10/11 正答数	1/24 正答数	10/11 正答割合	1/24 正答割合	得点が増 えた生徒	2回とも 0点の生徒
1	0	3	0%	50%	1	
2	0	4	0%	67%	1	
3	4	6	67%	100%	1	
4	6	6	100%	100%		
5	3	3	50%	50%		
6	3	6	50%	100%	1	
7	0	0	0%	0%		1
8	0	3	0%	50%	1	
9	3	6	50%	100%	1	
10	0	0	0%	0%		1
11	0	0	0%	0%		1
12	0	3	0%	50%	1	
13	0	3	0%	50%	1	
14	3	6	50%	100%	1	
15	6	6	100%	100%		
16	0	2	0%	33%	1	
17	3	2	50%	33%		
18	0	3	0%	50%	1	
19	6	6	100%	100%		
20	0	1	0%	17%	1	
21	6	6	100%	100%		
22	2	3	33%	50%	1	
23	6	6	100%	100%		
24	0	0	0%	0%		1
25	0	0	0%	0%		1
26	0	3	0%	50%	1	
27	0	3	0%	50%	1	
28	0	3	0%	50%	1	
29	0	0	0%	0%		1
30	1	5	17%	83%	1	
合計			30	30	17	6
100点の生徒			5	9		
0点の生徒			17	6		

Ⅱ. アンケート結果のまとめ

アンケート内容

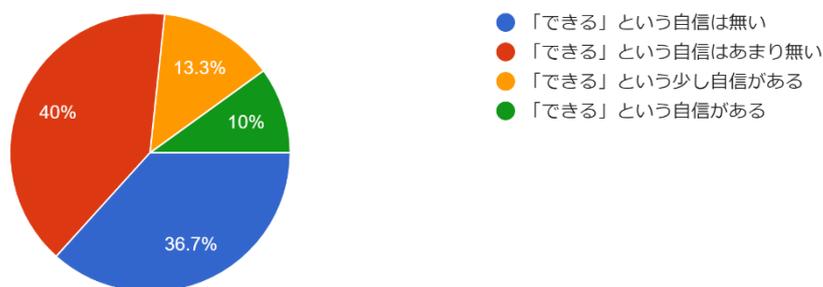
1. 増田高校に入学当初、学校生活は楽しかったですか。
2. 農業科学科に入学当初、農業について興味はありましたか。
3. 増田高校に入学当初、農業を進路の一つとして考えていましたか。
4. 高校入学当初、計算問題を解くことに「できる」という自信がありましたか。
5. 総合実習は農業に興味を持つために役に立ちましたか。(楽しかった、勉強になった等)
6. 校外研修は農業に興味を持つために役に立ちましたか。(楽しかった、勉強になった等)
7. 農業科学科の行事(校内研修、収穫祭など)は農業に興味を持つために役に立ちましたか。(楽しかった、勉強になった等)
8. 1月現在、学校生活は楽しいですか。
9. 1月現在、農業について興味はありますか。
10. 1月現在、農業(農業に関わる仕事を含む)を進路の一つとして考えていますか。
11. 定期的に濃度の計算などの解説や小テストを実施しましたが、この取り組みは自分自身にとって役立ちましたか。
12. 1月現在、計算問題を解くことに「できる」という自信はありますか。
13. 勉強や普段の生活で、自分の「苦手なこと」(計算問題など)が「できるようになる」(苦手意識が無くなる、好きになる等)ことは、学校生活が楽しくなる要因になりますか。
14. 農業の学習が他の教科の勉強に良い影響を与えていると思いますか。(目的意識を持たせ、やる気が出た等)

※まとめでは調査比較のため、順番を入れ替えて表示している。

1. 【授業の中で「苦手なこと」「できないこと」が「できるようになる」と、学校生活が楽しくなる】「農業の計算問題ができるようになる」について

4. 高校入学当初、計算問題を解くことに「できる」という自信がありましたか。

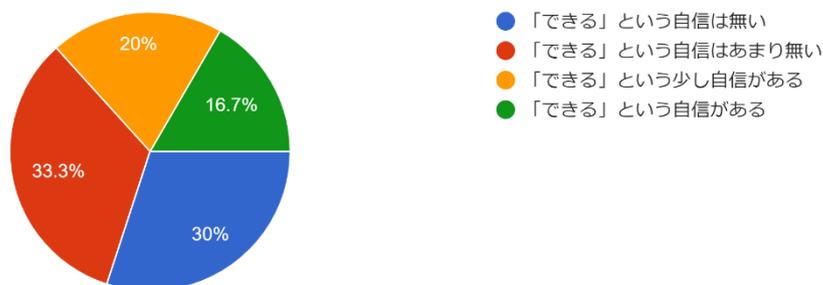
30件の回答



4. 高校入学当初、計算問題を解くことに「できる」という自信がありましたか。		
「できる」という自信は無い	11	36.7%
「できる」という自信はあまり無い	12	40.0%
「できる」という少し自信がある	4	13.3%
「できる」という自信がある	3	10.0%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

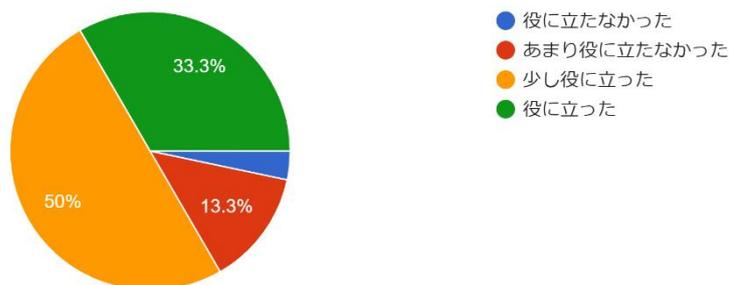
12. 1月現在、計算問題を解くことに「できる」という自信はありますか。

30件の回答



12. 1月現在、計算問題を解くことに「できる」という自信はありますか。		
「できる」という自信は無い	9	30.0%
「できる」という自信はあまり無い	10	33.3%
「できる」という少し自信がある	6	20.0%
「できる」という自信がある	5	16.7%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

1 1. 定期的に濃度の計算などの解説や小テスト...の取り組みは自分自身にとって役立ちましたか。
30件の回答



1 1. 定期的に濃度の計算などの解説や小テストを実施しましたが、この取り組みは自分自身にとって役立ちましたか。		
役に立たなかった	1	3.3%
あまり役に立たなかった	4	13.3%
少し役に立った	15	50.0%
役に立った	10	33.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

1 3. 勉強や普段の生活で、自分の「苦手なこと...とは、学校生活が楽しくなる要因になりますか。
30件の回答

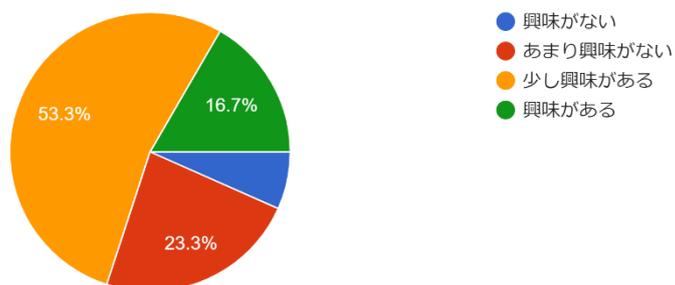


1 3. 勉強や普段の生活で、自分の「苦手なこと」（計算問題など）が「できるようになる」（苦手意識が無くなる、好きになる等）ことは、学校生活が楽しくなる要因になりますか。		
「できるようになる」ことと学校生活は関係無い	2	6.7%
「できるようになる」としても学校生活は楽しくならない	5	16.7%
「できるようになる」と学校生活は少し楽しくなる	14	46.7%
「できるようになる」と学校生活は楽しくなる	9	30.0%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.1%

2. 農業に対する意識調査

2. 農業科学科に入学当初、農業について興味はありましたか。

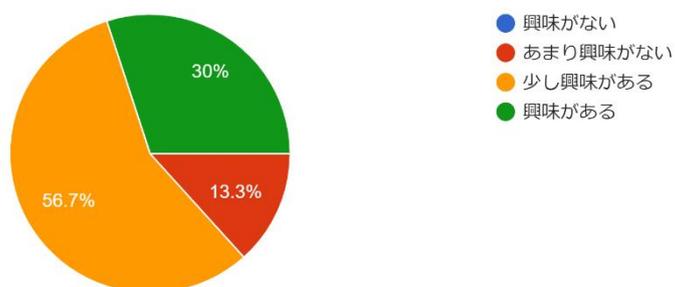
30件の回答



2. 農業科学科に入学当初、農業について興味はありましたか。		
興味がない	2	6.7%
あまり興味がない	7	23.3%
少し興味がある	16	53.3%
興味がある	5	16.7%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

9. 1月現在、農業について興味はありますか。

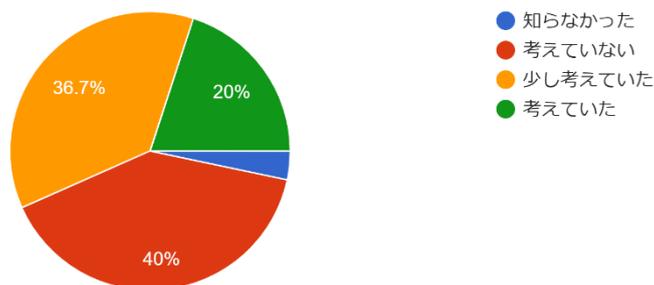
30件の回答



9. 1月現在、農業について興味はありますか。		
興味がない	0	0.0%
あまり興味がない	4	13.3%
少し興味がある	17	56.7%
興味がある	9	30.0%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

3. 増田高校に入学当初、農業を進路の一つとして考えていましたか。

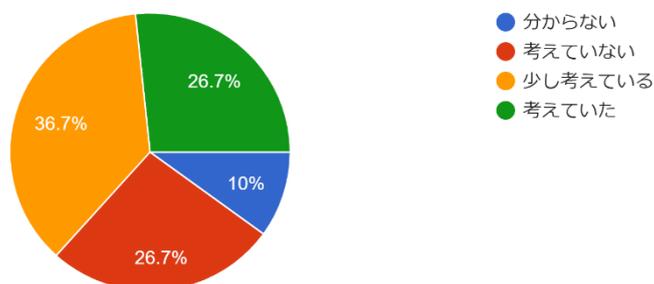
30件の回答



3. 増田高校に入学当初、農業を進路の一つとして考えていましたか。		
知らなかった	1	3.3%
考えていない	12	40.0%
少し考えていた	11	36.7%
考えていた	6	20.0%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

10. 1月現在、農業（農業に関わる仕事を含む）を進路の一つとして考えていますか。

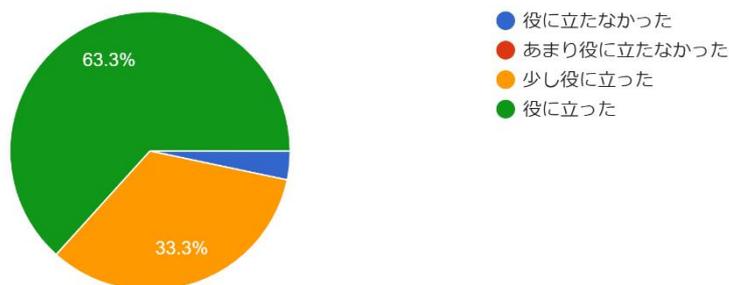
30件の回答



10. 1月現在、農業（農業に関わる仕事を含む）を進路の一つとして考えていますか。		
分からない	3	10.0%
考えていない	8	26.7%
少し考えている	11	36.7%
考えている	8	26.7%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.1%

5. 総合実習は農業に興味を持つために役に立ちましたか。（楽しかった、勉強になった等）

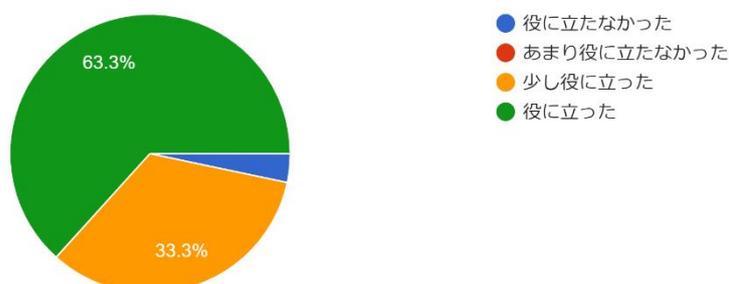
30件の回答



5. 総合実習は農業に興味を持つために役に立ちましたか。（楽しかった、勉強になった等）		
役に立たなかった	1	3.3%
あまり役に立たなかった	0	0.0%
少し役に立った	10	33.3%
役に立った	19	63.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

6. 校外研修は農業に興味を持つために役に立ちましたか。（楽しかった、勉強になった等）

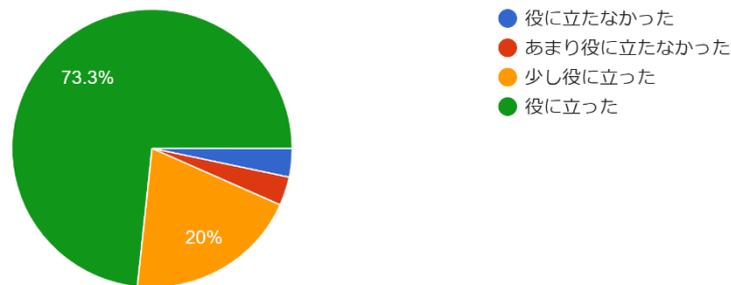
30件の回答



6. 校外研修は農業に興味を持つために役に立ちましたか。（楽しかった、勉強になった等）		
役に立たなかった	1	3.3%
あまり役に立たなかった	0	0.0%
少し役に立った	10	33.3%
役に立った	19	63.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

7. 農業科学科の行事（校内研修、収穫祭など）は農業に興味を持つために役に立ちましたか。
（楽しかった、勉強になった等）

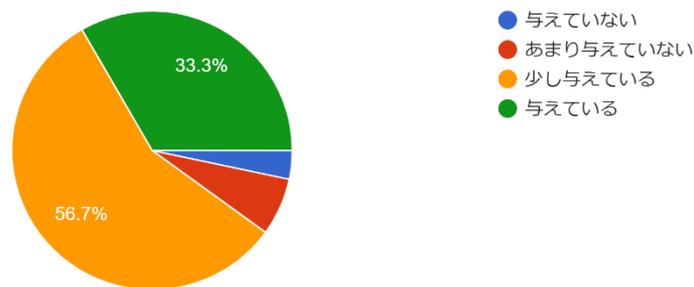
30 件の回答



7. 農業科学科の行事（校内研修、収穫祭など）は農業に興味を持つために役に立ちましたか。（楽しかった、勉強になった等）		
役に立たなかった	1	3.3%
あまり役に立たなかった	1	3.3%
少し役に立った	6	20.0%
役に立った	22	73.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

14. 農業の学習が他の教科の勉強に良い影響を...ますか。（目的意識を持た、やる気が出た等）

30 件の回答

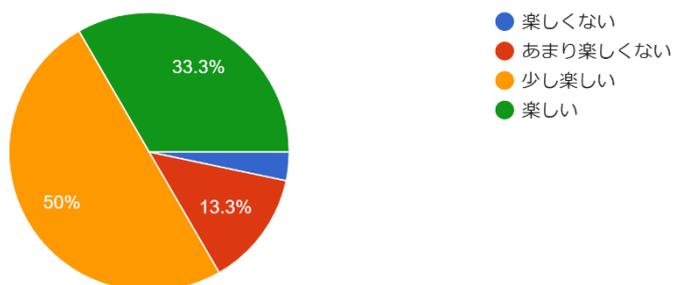


14. 農業の学習が他の教科の勉強に良い影響を与えていると思いますか。（目的意識を持た、やる気が出た等）		
与えていない	1	3.3%
あまり与えていない	2	6.7%
少し与えている	17	56.7%
与えている	10	33.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	100.0%

3. 学校生活に対する感じ方の変化について

1. 増田高校に入学当初、学校生活は楽しかったですか。

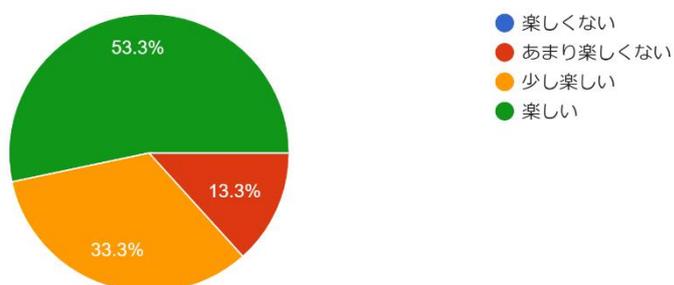
30件の回答



1. 増田高校に入学当初、学校生活は楽しかったですか。		
楽しくない	1	3.3%
あまり楽しくない	4	13.3%
少し楽しい	15	50.0%
楽しい	10	33.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

8. 1月現在、学校生活は楽しいですか。

30件の回答



8. 1月現在、学校生活は楽しいですか。		
楽しくない	0	0.0%
あまり楽しくない	4	13.3%
少し楽しい	10	33.3%
楽しい	16	53.3%
※都合上全て足しても100%になりません	30	99.9%

編集後記

今年度も初任者研修を含め複数の年次研修者が在籍し、指導主事の2回訪問とも重なり、充実した授業研修を行うことができました。

授業改善においては、ICT機器の実践的な活用について研修を行い、『生徒の「わかる」を手助けするためのICTの効果的な活用』を研究主題として、実践的な研修も取り入れることができました。今年度の研修内容が今後の教育活動の参考になればとおもいます。

最後になりますが、研究紀要の編集にあたり原稿を寄せていただきました先生方に、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

表紙 令和5年1年2組 高橋 小雪

「hear my voice」

令和5年度 研究紀要

令和6年3月発行

発行 秋田県立増田高等学校
住所 秋田県横手市増田町増田字一本柳137
電話 0182(45)2073
FAX 0182(45)2088
メール masuda-h@akita-pref.ed.jp